

主要農作物品種審査会

日 時：令和6年2月6日（火）
午前10時から正午まで
会 場：県行政庁舎4階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 報告及び協議

(1) 水 稻

イ 報 告

令和5年度水稻優良品種決定調査成績 資料1、資料6

□ 協 議

令和6年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について 資料2

(2) 大 豆

イ 報 告

令和5年度大豆優良品種決定調査成績 資料3、資料7

□ 協 議

令和6年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について 資料4

5 閉 会

■配付資料

資料1 水稻 報告事項 令和5年度水稻優良品種決定調査成績

資料2 水稻 審議事項

資料3 大豆 報告事項 令和5年度大豆優良品種決定調査成績

資料4 大豆 審議事項

資料5 参考資料

資料6 スライド資料 水稻 令和5年度水稻優良品種決定調査成績

資料7 スライド資料 大豆 令和5年度大豆優良品種決定調査成績

出席者名簿

【委員】

役職	氏名	所属及び職名	出欠
会長	本間 香貴	東北大学大学院農学研究科 教授	出席
副会長	佐々木 利幸	全国農業協同組合連合会宮城県本部 米穀部長	出席
副会長	高橋 久則	公益社団法人みやぎ農業振興公社 常務理事	出席
委員	大川 亘	尚絅学院大学総合人間科学系 准教授	欠席
委員	鳥羽 大陽	宮城大学食産業学群 准教授	出席
委員	高橋 清範	一般社団法人宮城県農業会議 副会長	出席
委員	加藤 房子	宮城県生活協同組合連合会 常務理事	出席
委員	大崎 早苗	宮城県農業士会	出席
委員	小粥 恵子	仙台市経済局農業振興課 課長	出席
委員	齋藤 裕	宮城県農政部 副部長（技術担当）	出席

【幹事】

役職	氏名	所属及び職名
幹事	千葉 啓嗣	宮城県農政部 みやぎ米推進課長
幹事	佐藤 潤一	宮城県農政部食産業振興課 総括課長補佐
幹事	門間 陽一	宮城県農政部農業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
幹事	佐々木都彦	宮城県古川農業試験場 作物育種部長
幹事	滝澤 浩幸	宮城県古川農業試験場 作物栽培部長

【事務局等】

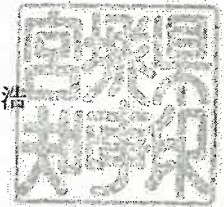
役職	氏名	所属及び職名
助言者	西條 和彦	宮城県古川農業試験場 作物育種部 原種生産チーム 主任研究員
事務局	我妻 因信	宮城県古川農業試験場 作物育種部 品種評価チーム 主任研究員
事務局	千葉 遼太郎	宮城県古川農業試験場 作物育種部 品種評価チーム 技師
事務局	今野 智寛	宮城県古川農業試験場 作物栽培部 大豆・麦チーム 研究員
事務局	佐藤 淳	宮城県農政部みやぎ米推進課 技術副参事兼総括課長補佐
事務局	増岡 直史	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技術主幹（班長）
事務局	佐藤 直紀	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技術主査（副班長）
事務局	増田 秀平	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技術主査（副班長）
事務局	石森 裕貴	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技術主査



みや米第568号
令和5年1月17日

主要農作物品種審査会会長 殿

宮城県知事 村井嘉浩



優良品種の指定等について（諮問）

このことについて、主要農作物種子条例（令和元年宮城県条例第59号）第18条の規定により、貴会の意見を求めます。

記

諮問内容

- 1 令和6年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について
- 2 令和6年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について

担当 農政部みやぎ米推進課

生産販売班 佐藤

TEL：022-211-2841 FAX：022-211-2849

E-mail：miyamai-se@pref.miyagi.lg.jp

水 稻

報 告 事 項

令和5年度水稻優良品種決定調査成績

令和5年度優良品種決定調査に供した品種（稲）について

1 優良品種として要望される品種（水稻）

気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種。

- イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種
 - (イ) 極良質・極良食味で他県の銘柄に対抗する品種
 - (ロ) 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種
 - (ハ) 既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種

- ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種
 - (イ) 業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種
 - (ロ) チルド加工適性の高い低アミロース品種
 - (ハ) 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種

- ハ 新たな需要を創出する品種
 - (イ) 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種
 - (ロ) 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応など実需者からの要望があり、特定需要が見込まれる品種

2 供試品種及び系統

令和5年度供試系統一覧

種類	早晩性	基本調査				現地調査	
		本調査	要望される 品種	予備調査	要望される 品種		
うるち	早生	奥羽450号 (1) (対)やまのしずく (比)あきたこまち	ロ-(イ)	岩手153号 山形154号 山形160号 (対)やまのしずく (比)あきたこまち	ロ-(ロ) イ-(イ) ロ-(イ)	奥羽450号 (1) (対)やまのしずく	
	中生	東北235号 (4) 東北236号 (2) 福島64号 (2) 岩手148号 (1) 東北241号 (1) (対)ひとめぼれ (比)まなむすめ (比)げんきまる	イ-(ハ) イ-(イ)、イ-(ハ) ロ-(イ) ロ-(イ) イ-(イ)	岩手152号 東北243号 秋田133号 奥羽452号 (対)ひとめぼれ (比)まなむすめ	ロ-(イ) イ-(ハ) ロ-(イ) ハ-(イ)	東北235号 (4) 福島64号 (2) 東北236号 (2) 岩手148号 (1) 東北241号 (1) (対)ひとめぼれ	
	晩生	東北238号 (2) 東北239号 (2) 東北242号 (1) (対)つや姫 (比)コシヒカリ (比)だて正夢	イ-(ロ) イ-(ロ)、ロ-(ロ) イ-(ロ)	東北244号 越南311号 関東291号 関東292号 (対)つや姫 (比)コシヒカリ	ハ-(イ) イ-(ロ) イ-(ロ) ロ-(イ)	東北238号 (2) 東北239号 (2) 東北242号 (1) (対)つや姫	
	新形 黄米	巨大 胚	中生	東北胚232号 (4) (対)金のいぶき	イ-(ハ)、ハ-(ロ)		東北胚232号 (4) (対)金のいぶき
	酒好 適 造米	中生	福島酒67号 (1) (対)蔵の華 (比)吟のいろは	ハ-(ロ)			
	計		11		11		10

注1) (対)、(比)はそれぞれ対照品種、比較品種。

注2) 本調査及び現地調査の()内の数字は供試年数。

令和5年度供試系統一覧（ロードマップ）

要望される品種	供試系統	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種						
イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種						
(イ) 極良質・極良食味で他県の銘柄に対抗する品種	東北236号 東北241号 山形154号			→	→	→
(ロ) 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種	東北238号 東北239号 東北242号 越南311号 関東291号			→	→	→
(ハ) 既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種	東北235号 東北236号(再掲) 東北胚232号 東北243号		→	→	→	→
ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種						
(イ) 業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種	奥羽450号 福島64号 岩手148号 岩手152号 秋田133号 山形160号 関東292号			→	→	→
(ロ) チルド加工適性の高い低アミロース品種	東北239号(再掲) 岩手153号			→	→	→
(ハ) 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種						
ハ 新たな需要を創出する品種						
(イ) 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種	東北244号 奥羽452号				→	→
(ロ) 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応など実需者からの要望があり、特性需要が見込まれる品種	東北胚232号(再掲) 福島酒67号	→	→	→	→	→

注1) 供試系統は、本調査は太字、予備調査は細字。

注2) 供試年度を示す矢印は、本調査は黒矢印、予備調査は白抜き矢印。

令和5年度水稻優良品種決定調査(本調査) 供試系統の特性概要

品種・系統名	交配組合せ	調査年数 (本調査)	直播検討 (宮城県)	早晩性	草型	稈長	耐倒伏性	穂発芽性	障害性	いもち病抵抗性		品質	食味	備考
										真性	穂			
奥羽450号	奥羽424号/羽系2176	1	○	や早生	偏穂数	短	強	中	や強	不明	か強	上下	上中	かなり多収,Pb1
(対)やまのしずく		-	-	早生	偏穂数	中	や強	や難	強	Pij	強	上中	上下	
(比)あきたこまち		-	-	早生	偏穂数	や長	や弱	や難	中	Pia,i	中	上中	上中	高温登熟性"中"
東北235号	東北209号/東1667	4	-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	強	Pij	強	上中	上中	カドミウム低吸収性,pi21, ひとめぼれ準同質遺伝子系統
東北236号	東1667//東1585/東1594	2	-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	か強	Pij	や弱	上中	上中	カドミウム低吸収性,Pb1
福島64号	越南244号/郡系955	2	○	中生	中間	や長	や強	難	か強	Pia,i	極強	上中	上中	高温登熟性"強",P139
岩手148号	東北224号/岩手124号	1	○	中生	中間	や長	や強	難	か強	Pij	極強	上下	上中	pi21
東北241号	東北214号/東北206号//東北220号	1	○	中生	偏穂数	中	中	中	強~や強	Pij	強	上中	上中	高温登熟性"や強",pi21,Pb1
(対)ひとめぼれ		-	-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	強	Pij	や弱	上中	上中	高温登熟性"中"
(比)まなむすめ		-	-	中生	中間	中	や強	難	強~や強	Pij	中	上中	上中	
(比)げんきまる		-	-	や晩生	中間	や長	強	難	強~や強	Pia,b	(中)	上中	上下	
東北238号	東1542/古川耐冷中母111	2	-	晩生	偏穂重	短	や強	や難	強	Pik-m	や強	上中	上中	
東北242号	東北226号/新潟115号	1	-	晩生	中間	中	や強	難	強	-Pij	か強	上中	上中	P139,Pb1
(対)つや姫		-	-	晩生	中間	や短	や強	中	や弱	Pii,k-m	(強)	上中	上中	高温登熟性"や強"
(比)コシヒカリ		-	-	晩生	中間	長	弱	難	強	+	弱	上下	上中	高温登熟性"中"
東北239号	東北225号/東北222号	2	-	晩生	中間	短	中	中	か強	Pij	か強	上中	上中	やや低アミロース
(対)つや姫		-	-	晩生	中間	や短	や強	中	や弱	Pii,k-m	(強)	上中	上中	高温登熟性"や強"
(比)だて正夢		-	-	中生	中間	や長	や強	や難	強	Pia,b	(中)	上中	上中	やや低アミロース
東北232号	東北202号(金のいぶき)/東1342	4	-	中生	偏穂数	や長	弱	難	や強	Pij	極強	中上	上下	巨大胚,低アミロース,P135,P139
(対)金のいぶき		-	-	や晩生	偏穂数	や長	中	中	強	Pia,i	中	中上	上下	巨大胚,低アミロース
好 福鳥酒67号	中部酒131号/郡系酒733	1	-	中生	中間	中	や強	難	強	Pia,i	強	中上	上中	心白発現高,P139
(対)蔵の華		-	-	中生	穂数	や短	や弱	や難	や強	+	中	上下	-	
(比)吟のいろは		-	-	中生	中間	や短	中	や難	強	Pia	強	上中	上中	心白発現高

注1) 対照品種：優良品種として普及しており、調査対象品種の比較対象の基準となる品種。比較品種：特定の形質を比較するための品種。

注2) 諸特性は育成地における評価(ただし、早晩性は古川農試における出穂期)。「や」は「やや」、「か」は「かなり」を略記。

注3) いもち病抵抗性の()書きは、いもち病ほ場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定(共同研究)におけるR4暫定評価。

注4) 備考の遺伝子記号(Pi35, P139, pi21, Pb1)は、それぞれ葉いもちほ場抵抗性、穂いもちほ場抵抗性に関係している遺伝子。

令和5年度水稻優良品種決定調査(予備調査)供試系統の特性概要

品種・系統名	交配組合せ		調査年数 (予備調査)	早熟性 (宮城県)	草型	稈長	耐倒伏性	穂発芽性	障害型 耐冷性	いもち病抵抗性		品質	食味	備考
	真性	穂												
岩手153号	きらほ	岩1513	1	早生	偏穂重	や長	中	未定	や強	Pii	極強	上下	上中	低アミロース、Pb1
山形154号	庄5119	岩手120号	1	早生	偏穂数	短	中	や難	か強	Pii	極強	上上	上中	良質良食味、P139
山形160号	東北224号	山形139号	1	早生	中間	中	中	や難	か強	Pii	強	上上	上中	高温登熟性"強"、P139、Pb1
(対)やまのしずく			-	早生	偏穂数	中	や強	や難	強	Pii	強	上中	上下	
(比)あきたこまち			-	早生	偏穂数	や長	や弱	や難	中	Pia,i	中	上中	上中	高温登熟性"中"
岩手152号	岩手129号	岩1310	1	中生	偏穂数	や長	や強	中	中	Pii	極強	上下	上中	P139
東北243号	17-1466	15N-174	1	中生	偏穂数	や長	や弱	難	極強	Pii	か強	上中	上中	カドミウム低吸収性、pi21、Pb1、 ひとめおぼれ準同質遺伝子系統
秋田133号	ゆめおぼこ	1/cd-kmt2/7*ゆめおぼこ	1	中生	中間	中	中	中	強	Pia,i	や強	上中	上中	カドミウム低吸収性、 ゆめおぼこ準同質遺伝子系統
奥羽452号	羽系1870	ふくひびき	1	中生	穂重	短	強	や易	や強	Pia,b	不明	中下	中上	極多収
(対)ひとめぼれ			-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	強	Pii	や弱	上中	上中	高温登熟性"中"
(比)まなむすめ			-	中生	中間	中	や強	難	強~やや強	Pii	中	上中	上中	
東北244号	東北211号	東北224号	1	晩生	中間	中	強	中	強	Pia,i	強	中下	上下	大粒多収、P139
越前311号	イクヒカリ	山形118号	1	晩生	中間	中	や強	や難	や弱	Pita-2	不明	上中	上中	高温登熟性"強"
関東292号	関東260号	(とよめき)/北陸263号(にじのきらめき)	1	晩生	偏穂重	中	や強	難	不明	Pia,i,b	不明	中上	上下	極多収、業務用、加工用、Pb1
関東291号	関東273号	ほしみのり	1	晩生	偏穂重	中	や強	難	不明	Pia	中	上中	上中	Pb1
(対)つや姫			-	晩生	中間	や短	や強	中	や弱	Pii,k-m	(強)	上中	上中	高温登熟性"や強"
(比)コシヒカリ			-	晩生	中間	長	弱	難	強	+	弱	上下	上中	高温登熟性"中"

注1) 対照品種：優良品種として普及しており、調査対象品種の比較対象の基準となる品種。比較品種：特定の形質を比較するための品種。

注2) 諸特性は育成地における評価(ただし、早熟性は古川農試における推定熟期)。「や」は「やや」、「か」は「かなり」を略記。

注3) いもち病抵抗性の()書きは、いもち病ほ場場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定(共同研究)におけるR4暫定評価。

注4) 備考の遺伝子記号(P139、pi21、Pb1)は、それぞれ葉いもちほ場抵抗性、穂いもちほ場抵抗性に関連している遺伝子。

表2 令和5年度水稲優良品種決定基本調査成績概要(予備調査)

	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-400)	発病程度				a当たり収量(篩目1.8mm)					玄米重 対比 (%)	籾重 比 (%)	千粒重 (g)	外観 品質 (1-9)	整粒 粒比 (%)	白未熟 粒比 (%)	死米 粒比 (%)	胴割粒 粒比 (%)	玄米 タンパク (乾物%)	有望度	概評(対照品種との比較)			
							成熟期		葉い もち	穂い もち	紋枯 病	稲こ うじ	全重 (kg)	わら重 (kg)	精粗重 (kg)											玄米重 (kg)	屑米重 (kg)	長所	短所
							葉い	穂い																					
(早生)																													
岩手153号	7/27	9/1	85.2	17.5	433	0	無	無	少	微	151	68.6	78.5	61.6	1.2	99	114	22.6	3.8	-	-	-	0	6.9	△~×	・品質優る。 →収量が同程度のため、打ち切り。	・収量が対照並 (多収にならなかった)		
山形154号	7/27	9/3	76.5	19.6	501	10	無	無	少	無	148	72.2	73.2	58.3	1.0	94	101	24.7	4.0	61.1	10.2	3.9	0.5	6.8	△~×	・白未熟粒少なく、品質やや優る。 →収量が少ないため、打ち切り。	・収量少ない。		
山形160号	7/27	9/3	77.4	18.4	442	10	無	無	少	無	157	72.5	78.8	63.3	0.7	102	109	22.7	4.3	63.1	15.2	2.0	1.1	6.6	△	・葉いもち発病なし(Pi39保有) ・白未熟粒少なく、品質やや優る。 →年次確認のため、継続。			
(対)やまのしずく	7/27	9/2	80.7	18.9	442	0	無	無	少	無	156	74.2	78.4	62.2	0.8	(100)	106	22.1	4.5	38.7	34.0	3.4	0.3	7.0					
(比)あきたこまち	7/27	9/2	85.0	18.5	454	0	無	無	少	無	159	78.1	76.9	60.8	0.7	98	99	21.9	4.8	42.5	31.1	2.1	0.1	6.8					
(中生)																													
奥羽452号	8/2	9/7	73.3	19.2	377	0	無	無	少	微	171	76.7	90.2	72.6	1.0	116	118	25.3	5.0	11.8	52.8	25.8	0.1	6.2	△~×	・収量多い。 ・千粒重大さい。 →品質が劣るため、打ち切り。	・白未熟粒多く、品質劣る。		
秋田133号	7/31	9/7	83.0	19.7	431	10	微	無	少	無	168	80.7	84.3	66.6	1.1	106	104	23.3	4.5	20.1	54.5	9.5	0.1	6.3	△	・Cd低吸収性(osnramp5-2保有) ・収量やや多い。 ・千粒重やや大きい。 →年次確認のため、継続。	・白未熟粒多く、品質やや劣る。		
東北243号	8/3	9/8	87.5	20.4	461	20	無	無	少	無	159	79.7	75.0	59.5	1.0	95	94	23.0	4.0	37.1	34.5	4.9	0	6.6	△	・葉いもち発病なし(pi21保有) ・Cd低吸収性(osnramp5-2保有) ・千粒重やや大きい。 →年次確認のため、継続。	・収量やや少ない。		
岩手152号	7/31	9/4	86.4	19.6	397	0	無	無	少	無	165	93.2	69.1	54.7	0.5	88	74	22.5	3.3	61.8	6.7	0.3	0.1	6.4	△~×	・葉いもち発病なし(Pi39保有) ・白未熟粒少なく、品質やや優る。 →収量が少ないため、打ち切り。	・収量少ない。		
(対)ひとめぼれ	7/31	9/4	84.3	18.5	481	75	無	無	少	無	159	76.3	79.2	62.5	1.3	(100)	104	22.3	4.3	51.0	20.9	4.8	0.2	6.5					
(比)まなむすめ	7/30	9/4	81.2	19.1	427	20	微	無	少	微	155	74.4	77.6	62.1	0.7	99	104	23.9	4.5	54.6	20.3	2.6	0.9	6.6					
(晩生)																													
関東292号	8/5	9/13	82.0	20.7	348	30	微	無	少	微	183	94.6	82.2	65.1	0.5	104	87	24.1	5.0	28.4	47.3	4.4	0	6.0	×	・収量やや多い。 ・千粒重大さい。 →品質が劣るため、打ち切り。	・白未熟粒多く、品質劣る。		
関東291号	8/9	9/13	84.7	21.5	321	0	無	無	少	微	171	94.9	72.6	56.8	0.7	91	77	22.9	4.5	42.0	32.3	1.2	0.1	6.1	×	→収量、品質が劣るため、打ち切り。	・収量少ない。 ・基白粒多く、品質劣る。		
東北244号	8/5	9/12	74.0	22.1	386	45	無	無	少	甚	167	79.9	80.6	63.8	1.1	102	101	24.6	5.0	3.3	54.8	36.5	0	5.8	×	・葉いもち発病なし(Pi39保有) ・千粒重大さい。 →品質が劣るため、打ち切り。	・白未熟粒多く、品質劣る。		
越南311号	8/9	9/15	86.0	18.8	361	0	無	無	少	微	172	92.8	77.4	61.5	0.5	98	83	23.0	3.0	73.1	5.6	0.4	0.1	6.2	△	・白未熟粒少なく、品質やや優る。 ・千粒重やや大きい。 →年次確認のため、継続。			
(対)つや姫	8/8	9/15	84.3	17.9	433	10	無	無	少	微	171	88.6	78.6	62.7	0.7	(100)	89	22.0	3.5	52.2	15.2	0.2	0.1	6.6					
(比)コシヒカリ	8/10	9/15	101.9	18.3	424	120	微	無	少	中	180	100.6	75.1	59.3	0.9	95	75	21.5	4.0	36.7	33.4	0.9	0.4	6.3					

注1) 倒伏は倒伏程度(0:無倒伏~4:完全倒伏)別の面積比率により、0~400で示した。発病程度は、発生予察事業の調査実施基準に準じた(ただし、「少」に達しない発病については「微」とした)。

注2) 玄米調整は篩目1.8mmで行い、水分は15%で換算した。

注3) 外観品質は、上上~下下を1~9で示した。整粒粒比、白未熟粒比(乳白粒比、基部未熟粒比、背腹白未熟粒比の合計)、死米粒比及び胴割粒粒比は、S社製穀粒判別器(RGQ1100B)で測定した。

注4) 玄米タンパク質含有率は、F社製近赤外成分測定装置(インフラテックNOVA)で測定した。

注5) 有望度は、有望~打ち切りを◎~○~△~×で示す。ただし、×以外でも採用される余地がない場合"打ち切り"とすることがある。

表9 令和5年度水稲優良品種決定地調査成績概要(生育ステージ・収量品質)

		山間高冷	西部丘陵		北部平坦		南部平坦	三陸沿岸	仙台湾沿岸	
		七ヶ宿	泉	小野田	高清水	中田	角田	気仙沼	亘理	矢本
奥羽450号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質	8/6 - 9/15 56.0 2.0								
(対)やまのしずく	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質	8/1 - 9/13 55.5 2.0								
東北235号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質				8/1 - 9/6 48.4 4.5	8/1 - 9/11 63.8 3.0		8/6 - 9/14 51.2 5.0		8/2 - 9/4 47.8 4.0
東北236号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質		7/31 - 9/7 61.2 4.0	8/5 - 9/6 59.5 3.5		8/3 - 9/12 65.0 3.0				
福島64号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質		7/31 - 9/7 58.5 3.5					8/6 - 9/14 48.6 4.0		8/3 - 9/6 49.3 2.0
岩手148号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質			8/1 - 9/4 49.4 3.0				8/2 - 9/3 46.8 5.0		
東北241号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質				7/31 - 9/12 53.1 3.8		7/30 - 9/1 60.0 3.0			8/2 - 9/7 61.2 3.0
(対)ひとめぼれ	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質		7/30 - 9/6 53.9 4.0	8/1 - 9/1 59.6 3.0	7/30 - 9/9 54.2 4.0	7/31 - 9/11 69.3 2.7	7/29 - 9/4 61.8 4.0	8/2 - 9/3 54.5 4.5	7/31 - 9/7 60.3 3.0	8/1 - 9/4 50.8 4.0
東北238号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質				8/9 - 9/17 57.6 3.5			8/4 - 9/13 62.3 4.0		8/7 - 9/15 62.4 2.0
東北239号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質		8/9 - 9/14 62.1 5.0							8/10 - 9/12 53.3 3.0
東北242号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質				8/7 - 9/15 57.3 4.5		8/2 - 9/15 58.3 6.0			8/7 - 9/15 57.7 4.0
(対)つや姫	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質		8/4 - 9/10 63.3 3.0		8/5 - 9/15 57.0 3.8		8/2 - 9/13 62.5 3.0			8/7 - 9/15 67.2 2.0
東北胚232号	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質			8/3 - 9/5 42.6 3.0		8/1 - 9/13 64.3 3.2				
(対)金のいぶき	出穂-成熟期 収量(kg/a) 品質			8/7 - 9/10 34.5 3.0		8/4 - 9/15 58.2 3.2				

注1) 品質は、上上～下下を1～9で示した。

表10 令和5年度水稲優良品種決定地調査成績概要(概評及び有望度)

供試系統	対照品種	試験地(担当 普及センター)	評価	総合 判定	概評(収量・品質を中心に要約)
奥羽450号	やまのしずく	七ヶ宿(大河原)	△	△～×	収量は並、品質は同等からやや劣る。
		高清水(栗原)	△		千粒重は同程度だったが、精玄米重比は89%と低かった。品質はやや劣った。
		中田(登米)	×		生育量は同程度だが倒伏が見られ、穂いもち病及紋枯れ病が散見。収量対比92%、品質もやや劣る。
東北235号	ひとめぼれ	気仙沼(気仙沼)	△	○	Cd低吸収性は優良品種として有望な形質である一方、収量は対照より少ない傾向が継続している。
		矢本(石巻)	○		品質は対照と同程度。千粒重が軽く収量がやや劣ったが、ひとめぼれの低Cd吸収性準同質系統としての特性を十分備えていると評価した。
		泉(仙台)	△		軽い倒伏が見られたが、収量は多く、品質は同等。Cd低吸収性であることから継続検討とした。
東北236号	ひとめぼれ	小野田(大崎)	○	○～△	出穂期は対照より4日、成熟期は5日遅く、収量は同等であった。白未熟粒が多い。
		中田(登米)	△		生育量は同程度。穂いもち病が散見され、収量対比94%、品質もやや劣る。
		高清水(栗原)	○		穂数が同程度で、精玄米重比は同程度となった。品質はやや優った。
東北241号	ひとめぼれ	角田(大河原)	△～×	○～△	収量はやや劣り、品質はやや優る。
		亘理(亘理)	△		千粒重はやや低いが、精玄米重が同等。高温耐性品種であるが、外観品質では背白が多かった。
		泉(仙台)	○		収量が多く、品質も良い。今年は高温登熟性の強さが発揮されたと考えられ、有望とした。
福島64号	ひとめぼれ	気仙沼(気仙沼)	×	○	品質はやや優ったが、収量は下回り、対照と比較しての優位性はないと考えられる。
		矢本(石巻)	○		千粒重がわずかに大きく収量は同程度。薄茶米はあるが白未熟粒が少なく、品質良い。特に高温耐性に優れた特性を評価し有望と判断した。
		小野田(大崎)	×		出穂期は「ひとめぼれ」と同等、収量は17%低かった。
岩手148号	ひとめぼれ	気仙沼(気仙沼)	×	×	熟期は対照と同等だが、収量や品質は下回り対照と比較しての優位性はないと考えられる。
東北238号	つや姫	高清水(栗原)	△		穂数が少ないが、千粒重がやや大きく、精玄米重比は同程度となった。品質ではやや優った。
		角田(大河原)	×	△	収量は並、品質はやや劣る。
		亘理(亘理)	△		つや姫と比較して、精玄米重は少ないが、玄米千粒重が高い。玄米外観品質は同程度。
東北239号	つや姫	泉(仙台)	×		収量が低く、白未熟粒や死米が多く品質も悪い。出穂期や成熟期も遅く、調査打ち切りとした。
		矢本(石巻)	○	○	千粒重が重く多収。白濁が目立ったが、登熟期の記録的な高温によるもので、有望と判断した。
		高清水(栗原)	○		千粒重が大きく、精玄米重が同程度であった。品質ではやや劣った。
東北242号	つや姫	角田(大河原)	×	△～×	収量及び玄米品質が劣る。倒伏甚。
		亘理(亘理)	△		精玄米重は著しく少なかったが、玄米千粒重が高い。外観品質は、背白が著しく多く、対照より劣る。
		小野田(大崎)	◎	◎～○	「金のいぶき」より出穂期で4日、成熟期で5日それぞれ早く、収量で23%多収であった。
東北胚232号	金のいぶき	中田(登米)	○		稈長及び穂長がやや短い。穂いもち病及び紋枯れ病が散見され、収量対比110%、品質も同程度。

注) 評価の凡例 ◎:有望 ○:有望 △:継続調査 ×:調査打ち切り

令和5年度主要農作物品種審査会

水 稻 審 議 事 項 (案)

令和6年2月

宮城県

令和6年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について（案）

1 優良品種として要望される品種（水稻）

気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種

イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種

（イ）極良質・極良食味で他県の銘柄に対抗する品種

（ロ）「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種

（ハ）既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種

ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種

（イ）業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種

（ロ）チルド加工適性の高い低アミロース品種

（ハ）大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種

ハ 新たな需要を創出する品種

（イ）輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種

（ロ）米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応など実需者からの要望があり、特定需要が見込まれる品種

2 供試品種及び系統

令和6年度水稻優良品種決定基本調査に供する系統一覧(案)

種類	早晩性	基本調査		現地調査
		本調査	要望される品種	
うるち	早生	山形160号 (1) (対)やまのしずく (比)あきたこまち	㊦-㊦	山形160号 (1) (対)やまのしずく
		福島64号 (3) 東北241号 (2) 東北243号 (1) 秋田133号 (1) (対)ひとめぼれ (比)まなむすめ (比)げんきまる	㊦-㊦ ㊦-㊦ ㊦-㊦ ㊦-㊦	福島64号 (3) 東北241号 (2) 東北243号 (1) 秋田133号 (1) (対)ひとめぼれ
	晩生	東北238号 (3) 越南311号 (1) (対)つや姫 (比)コシヒカリ	㊦-㊦ ㊦-㊦	東北238号 (3) 越南311号 (1) (対)つや姫
		東北239号 (3) (対)だて正夢 (比)つや姫	㊦-㊦、㊦-㊦	東北239号 (3) (対)だて正夢
新 形 質 米	㊦ ア ミ ロ ー ス			
計		8		8

注1) (対)、(比)はそれぞれ対照品種、比較品種。

注2) 本調査及び現地調査の()内の数字は供試年数。

注3) 予備調査の供試系統については、優良品種として要望される品種に基づき適宜選定する。

令和6年度水稻優良品種決定基本調査に供する系統一覧（案）（ロードマップ）

要望される品種	供試系統	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種					
既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種					
(イ) 極良質・極良食味で他県の銘柄に對抗する品種	福島64号 東北241号	→	→	→	→
(ロ) 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種	東北238号 東北239号 越南311号	→	→	→	→
(ハ) 既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種	東北243号			→	→
中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種					
(イ) 業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種	秋田133号 山形160号			→	→
(ロ) チルド加工適性の高い低アミロース品種	東北239号(再掲)	→	→		
(ハ) 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種					
ハ 新たな需要を創出する品種					
(イ) 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種					
(ロ) 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応など実需者からの要望があり、特性需要が見込まれる品種					

注1) 供試系統は、本調査は太字、予備調査は細字。

注2) 供試年度を示す矢印は、本調査は黒矢印、予備調査は白抜き矢印。

令和6年度水稻優良品種決定調査(本調査)供試系統(案)の特性概要

品種・系統名	交配組合せ	調査年数 (本調査)	直播検討 (宮城県)	早晩性	草型	稈長	耐倒伏性	穂発芽性	障害型 耐冷性	いもち病抵抗性		品質	食味	備考
										真性	穂			
山形160号	東北224号/山形139号	1	○	早生	中間	中	中	や難	か強	強	極強	上上	上中	高温登熟性"強",多収,Pi39,Pb1
(対)やまのしずく		-	-	早生	偏穂数	中	や強	や難	強	強	強	上中	上下	
(比)あきたこまち		-	-	早生	偏穂数	や長	や弱	や難	中	中	や弱	上中	上中	高温登熟性"中"
福島64号	越南244号/郡系955	3	○	中生	中間	や長	や強	難	か強	極強	中	上中	上中	高温登熟性"強",Pi39
東北241号	東北214号/東北206号/東北220号	2	○	中生	偏穂数	中	中	中	強~や強	強	か強	上中	上中	高温登熟性"や強",pi21,Pb1
東北243号	17-1466/15N-174	1	-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	極強	強	か強	上中	上中	カドミウム低吸収性,pi21,Pb1, ひとめばれ,準同質遺伝子系統
秋田133号	ゆめおぼこ//od-kmt2/7*ゆめおぼこ	1	○	中生	中間	中	中	中	強	強	や強	上中	上中	カドミウム低吸収性, ゆめおぼこ準同質遺伝子系統
(対)ひとめばれ		-	-	中生	偏穂数	や長	や弱	難	強	強	中	上中	上中	高温登熟性"中"
(比)まなむすめ		-	-	中生	中間	中	や強	難	強~や強	強	中	上中	上中	
(比)げんきまる		-	-	や晩生	中間	や長	強	難	強~や強	強	(中)	上中	上下	
東北238号	東1542/古川耐冷中母111	3	-	晩生	偏穂重	短	や強	や難	強	強	強	上中	上中	
越南311号	イクヒカリ/山形118号	1	-	晩生	中間	中	や強	や難	や弱	不明	不明	上中	上中	高温登熟性"強"
(対)つや姫		-	-	晩生	中間	や短	や強	中	や弱	強	(強)	上中	上中	高温登熟性"や強"
(比)コジヒカリ		-	-	晩生	中間	長	弱	難	強	+	弱	上下	上中	高温登熟性"中"
東北239号	東北225号/東北222号	3	-	晩生	中間	短	中	中	か強	強	か強	上中	上中	やや低アミロース
(対)つや姫		-	-	晩生	中間	や短	や強	中	や弱	強	(強)	上中	上中	高温登熟性"や強"
(比)だて正夢		-	-	中生	中間	や長	や強	や難	強	強	(中)	上中	上中	やや低アミロース

注1) 対照品種：優良品種として普及しており、調査対象品種の比較対象の基準となる品種。比較品種：特定の形質を比較するための品種。

注2) 諸特性は育成地における評価(ただし、早晩性は古川農試における出穂期)。「や」は「やや」、「か」は「かなり」を略記。

注3) いもち病抵抗性の()書きは、いもち病ほ場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定(共同研究)におけるR5暫定評価。

注4) 備考の遺伝子記号(Pi39, pi21, Pb1)は、それぞれ葉いもちほ場抵抗性、穂いもちほ場抵抗性に関係している遺伝子。

大 豆

報 告 事 項

令和5年度大豆優良品種決定調査成績

令和5年度優良品種決定調査に供した品種(大豆)について

1 優良品種として要望される品種 (大豆)

良質多収で機械による収穫適性及びタンパク含量が高く、加工適性に優れた以下の特性を有する品種。

イ 晩播栽培に適する品種。

ロ ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い品種。

ハ 「タンレイ」より紫斑病抵抗性が強い品種。

2 供試品種及び系統

区分	早晩性	本調査	要望される品種	現地調査
普通	中生	東山239号 (3)	ハ	
		リョウユウ(東北190号) (2) (標) タンレイ	ロ	
	中生晩	東北191号 (3) (標) タチナガハ (比) ミヤギシロメ	ロ	東北191号 (2) (標) タチナガハ (比) ミヤギシロメ
計		3		1

注1) (標)、(比)はそれぞれ対照品種、比較品種

注2)本調査及び現地調査の()内の数値は供試年数。

※優良品種決定基準については、参考資料p1参照。

※優良品種決定調査方法については、参考資料p5～p7参照。

表1 令和5年度大豆優良品種決定基本調査成績概要(本調査)

系統・品種名	調査年数 本 現 地	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	諸障害				主莖長 (cm)	最下 着莢高 (cm)	主莖 節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効 莢数 (個/m ²)	粗子実重 (kg/a)	同左 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質 (1-7)	障害粒					子実成分			概評(対照品種との比較)			現地試験 有望度				
				倒伏 程度 (0-5)	蔓化 程度 (0-5)	青立 程度 (0-5)	立枯 程度 (0-5)										紫斑 (0-5)	褐斑 (0-5)	裂皮 (0-5)	しわ (0-5)	虫害 (0-5)	粗蛋 白質 (%)	粗脂肪 (%)	全糖 (%)	有望度	長所	短所		登米	美里	栗原	
(早生) 東山239号	3	(標播) 7/18 (晩播) 8/5	10/30 10/24	0.0 0.0	0.0 0.0	1.3 0.0	1.0 0.0	71.7 69.4	11.4 14.7	15.2 13.5	10.9 6.9	666 697	37.9 43.5	152 136	32.7 28.6	4.7 5.0	1 1	1 1	0 0	0 1	0 0	45.7 43.3	20.7 20.9	20.9 20.2	◇	標播・晩播によらず、粗子実重が多い ・青立ちの発生が少ない ・外観品質が優る ・褐斑粒の被害割合が低い	特になし					
(中生の早) リョウユウ (東北190号)	2	(標播) 7/18 (晩播) 8/4	11/10 10/26	0.0 0.0	0.0 0.0	2.3 1.0	1.0 0.0	53.1 52.8	7.3 11.1	14.9 13.7	11.3 6.7	640 722	19.1 36.0	77 113	24.1 29.7	6.7 6.0	2 1	3 1	1 1	0 1	0 0	43.5 43.0	20.3 21.2	21.3 21.5	△	晩播の粗子実重が多い ・褐斑粒の被害割合が低い	標播の粗子実重が少ない ・最下着莢高が低い ・紫斑粒の被害割合が高い					
(対)タンレイ	-	(標播) 7/18 (晩播) 8/5	11/6 10/26	0.0 0.0	0.0 0.0	2.3 1.5	1.0 0.0	62.1 66.9	10.4 17.2	14.3 13.3	9.3 4.9	687 752	24.8 32.0	100 100	26.1 23.9	6.7 6.0	1 1	5 2	1 0	0 3	0 0	45.0 43.8	20.0 20.2	21.9 21.5								
(中生の晩) 東北191号	3	(標播) 7/18 (晩播) 8/5	11/10 11/6	0.0 0.0	0.0 0.0	2.3 0.0	0.0 0.0	70.8 67.1	11.3 16.3	15.2 13.2	10.5 4.6	551 584	21.4 35.7	143 150	36.5 32.0	5.7 4.5	1 0	2 1	2 1	0 0	0 0	45.5 44.9	19.9 20.2	21.7 21.1	◇	標播・晩播によらず、粗子実重が多い ・青立ちの発生が少ない ・褐斑粒の被害割合が低い	最下着莢高が低い ・紫斑粒の被害割合が高い ・裂皮粒の被害割合が高い					
(対)タチナガハ	-	(標播) 7/19 (晩播) 8/6	11/10 11/13	0.0 0.0	0.7 0.0	3.0 3.0	2.0 0.0	75.2 71.9	11.9 20.0	15.6 14.7	7.8 4.8	413 501	14.9 23.7	100 100	33.2 30.2	6.0 5.5	0 0	3 1	1 0	0 0	1 1	43.1 41.6	21.2 21.0	22.0 22.0								
(比)ミヤギシロメ	-	(標播) 7/26 (晩播) 8/9	11/13 11/13	1.3 2.0	2.3 3.0	3.7 3.0	0.0 0.0	97.7 95.2	11.0 31.2	17.9 16.6	10.5 5.1	397 472	9.3 26.3	62 111	36.9 36.4	5.3 3.5	0 0	2 1	2 1	1 0	0 0	43.6 44.0	19.1 19.5	23.6 23.8								
(比)すずみのり	-	(標播) 7/18 (晩播) 8/3	11/6 10/30	0.0 0.0	0.0 0.0	0.3 1.0	1.0 0.0	75.1 64.1	9.9 13.4	16.2 13.2	7.1 4.4	553 584	33.8 38.6	226 163	33.8 29.4	5.0 4.5	0 0	2 1	1 0	0 1	0 0	46.1 44.3	19.2 19.7	21.8 22.2								

表2 令和5年度大豆優良品種決定基本調査成績概要(予備調査)

系統・品種名	調査年数 本 現 地	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	諸障害				主莖長 (cm)	最下 着莢高 (cm)	主莖 節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効 莢数 (個/m ²)	粗子実重 (kg/a)	同左 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質	障害粒					子実成分			概評(対照品種との比較)							
				倒伏 程度 (0-5)	蔓化 程度 (0-5)	青立 程度 (0-5)	立枯 程度 (0-5)										紫斑 (0-5)	褐斑 (0-5)	裂皮 (0-5)	しわ (0-5)	虫害 (0-5)	粗蛋 白質 (%)	粗脂肪 (%)	全糖 (%)	有望度	長所	短所	登米	美里	栗原		
(中生の早) 東北196号	-	(標播) 7/16 (晩播) 8/3	10/4 10/10	0.0 0.0	0.0 0.0	4.0 0.0	1.0 0.0	59.4 58.7	7.8 12.3	15.2 12.3	8.5 5.7	869 850	36.1 41.1	146 128	24.7 20.9	7.0 5.5	4 2	2 1	0 0	0 1	0 1	45.2 41.3	21.5 21.9	19.2 20.5	×	標播・晩播によらず、粗子実重が多い ・褐斑粒の被害割合が低い	青立ちの発生が多い ・最下着莢高が低い ・紫斑粒の発生割合が高い					
関東155号	-	(標播) 7/18 (晩播) 8/5	10/23 10/23	0.0 0.0	0.0 0.0	1.0 0.0	0.0 0.0	61.9 61.7	7.5 10.8	12.9 12.5	11.3 6.2	1047 1034	45.1 49.1	182 153	24.3 22.1	3.0 2.0	1 1	1 1	1 0	0 0	0 0	43.7 40.5	21.1 22.8	20.9 20.0	◇	標播・晩播によらず、粗子実重が多い ・青立ちの発生が少ない ・外観品質が優る ・褐斑粒の発生割合が低い	最下着莢高が低い					
(対)タンレイ	-	(標播) 7/18 (晩播) 8/5	11/6 10/26	0.0 0.0	0.0 0.0	2.3 1.5	1.0 0.0	62.1 66.9	10.4 17.2	14.3 13.3	9.3 4.9	687 752	24.8 32.0	100 100	26.1 23.9	6.7 6.0	1 1	5 2	1 0	0 3	0 0	45.0 43.8	20.0 20.2	21.9 21.5								
(中生の晩) 北陸6号	-	(標播) 7/21 (晩播) 8/6	11/6 10/30	0.0 0.0	0.0 0.0	0.7 3.0	1.0 0.0	71.5 63.0	10.1 16.0	15.9 13.2	9.8 4.5	782 708	37.9 40.4	254 170	32.5 30.0	5.7 4.5	1 0	1 1	1 0	0 1	0 0	45.5 43.6	19.9 20.6	21.5 22.1	◇	標播・晩播によらず、粗子実重が多い ・褐斑粒の発生割合が低い	最下着莢高が低い ・紫斑粒の発生割合が高い					
(対)タチナガハ	-	(標播) 7/19 (晩播) 8/6	11/10 11/13	0.0 0.0	0.7 0.0	3.0 3.0	2.0 0.0	75.2 71.9	11.9 20.0	15.6 14.7	7.8 4.8	413 501	14.9 23.7	100 100	33.2 30.2	6.0 5.5	0 0	3 1	1 0	0 0	1 1	43.1 41.6	21.2 21.0	22.0 22.0								

注1) 諸障害の発生程度は、無:0,微:1,少:2,中:3,多:4,甚:5を示す。

注2) 品質は、上の上:1,上の中:2,上の下:3,中の上:4,中の中:5,中の下:6,下の下:7を示す。

注3) 粗蛋白質含有率は、東北農業研究センターにおける近赤外分光分析法(全粒大豆)による無水分中の含有率。窒素蛋白質換算係数は1.625。

注4) 評価の凡例 ◎:有望 ○:やや有望 ◇:再検討 △:やや劣る ×:劣る

	標播	晩播	標播・晩播共通	
播種期	5月25日	6月27日	粒状苦土石灰(5kg/a)	
区制	本調査3区,予備調査2区	2区	高度化成550(大豆専用)	
栽植密度	13.3本/m ²	26.7本/m ²	N:P:K=0.2:0.6:0.8(kg/a)	
畦間	75cm	75cm	クルザ-MAXX 5月11日 種子処理	
株間	20cm	10cm	フアンダジスタフロアブル 8月14日 トロン散布	
除草剤	エトトップP乳剤(播種後)		5月11日	
	5月25日	6月27日	" "	
	ホルトフロアブル 7月12日		" "	
中耕	6月26日、7月14日	7月14日、7月28日	" "	

表3 令和5年度供試系統過年度調査成績(東山239号)

栽培 条件	系統名 品種名	試験 年次	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏 程度 0-5	蔓化 程度 0-5	立枯 程度 0-5	青立 程度 0-5	茎長 (cm)	最下着 莢高 (cm)	主茎 節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効 莢数 (個/m ²)	子実重 (kg/a)	子実重 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質 1-7	障害粒				粗タンパク 含有率 (%)	粗脂肪 含有率 (%)	全糖 含有率 (%)	有望度 (案)
																			紫斑病 0-5	褐斑粒 0-5	裂皮 0-5	しわ 0-5				
標播	東山239号	R2	5/28	8/7	10/21	0.2	0.0	2.7	0.0	66	16.8	14.5	9.8	847	26.2	119	31.0	4.2	1	0	0	0	41.7	21.9	20.6	◇
		R3	5/25	7/29	11/4	0.6	0.0	0.0	0.0	97	23.4	17.1	9.2	552	42.4	104	38.9	2.3	0	0	1	0	45.4	20.1	21.4	◇
		R4	5/25	7/29	10/17	0.7	0.0	0.0	0.7	76	22.7	14.7	9.6	689	40.2	170	33.2	4.0	0	0	0	0	45.4	20.7	19.7	◇
		R5	5/25	7/18	10/30	0.0	0.0	1.3	1.0	72	11.4	15.2	10.9	666	37.9	152	32.7	4.7	1	1	1	0	45.7	20.7	20.9	◇
		平均	5/26	7/29	10/26	1.0	0.0	2.0	1.0	78	19.0	16.0	10.0	689	37.0	137	34.0	4.0	1	1	1	0	45.0	21.0	21.0	
ダンレイ	東山239号	R2	5/28	8/5	11/3	0.1	0.0	3.0	1.3	60	10.3	13.2	8.2	805	22.0	100	30.4	5.5	2	0	1	0	43.8	20.6	21.7	
		R3	5/25	7/29	11/10	0.9	0.0	0.0	1.0	89	18.2	16.8	8.9	647	40.6	100	36.0	4.3	1	0	2	0	45.1	19.3	22.4	
		R4	5/25	7/31	10/12	0.0	0.0	0.0	1.0	59	19.0	14.2	5.8	602	23.7	100	28.8	4.0	0	0	1	1	42.6	21.0	20.9	
		R5	5/25	7/18	11/6	0.0	0.0	2.3	1.0	62	10.4	14.3	9.3	687	24.8	100	26.1	6.7	1	5	1	0	45.0	20.0	21.9	
		平均	5/26	7/29	10/31	1.0	0.0	2.0	2.0	68	15.0	15.0	9.0	686	28.0	100	31.0	6.0	1	2	2	1	45.0	21.0	22.0	
晩播	東山239号	R2	6/25	8/16	10/28	2.5	0.0	0.0	0.0	72	20.9	13.9	7.2	743	26.4	93	29.7	4.8	1	0	0	0	45.8	20.0	21.6	
		R3	6/25	8/9	11/3	0.0	0.0	0.0	0.0	87	31.9	12.9	6.0	658	40.3	103	35.3	1.8	0	0	0	0	46.2	19.7	21.5	
		R4	6/24	8/7	10/20	0.0	0.0	0.0	0.0	61	23.4	12.6	7.0	792	42.1	126	33.6	4.5	0	0	0	0	47.4	19.6	19.4	
		R5	6/27	8/5	10/24	0.0	0.0	0.0	0.0	69	14.7	13.5	6.9	697	43.5	136	28.6	5.0	1	1	0	1	43.3	20.9	20.2	
		平均	6/26	8/10	10/27	1.0	0.0	0.0	0.0	73	23.0	14.0	7.0	723	39.0	115	32.0	5.0	1	1	0	1	46.0	21.0	21.0	
ダンレイ	東山239号	R2	6/25	8/14	11/3	0.5	0.0	0.0	0.0	72	17.8	13.1	5.0	909	28.4	100	28.0	4.8	1	0	1	0	44.5	19.9	21.8	
		R3	6/25	8/9	11/8	0.8	0.0	0.0	0.0	88	20.0	13.6	4.1	745	39.1	100	32.7	4.5	2	0	0	0	46.1	19.0	22.3	
		R4	6/24	8/9	10/23	0.0	0.0	0.0	0.5	47	18.9	12.0	3.9	562	33.5	100	33.0	4.5	0	0	0	0	45.0	19.9	21.0	
		R5	6/27	8/5	10/26	0.0	0.0	1.5	0.0	67	17.2	13.3	4.9	752	32.0	100	23.9	6.0	1	2	0	3	43.8	20.2	21.5	
		平均	6/26	8/10	10/31	1.0	0.0	1.0	1.0	69	19.0	13.0	5.0	743	34.0	100	30.0	5.0	1	1	1	1	45.0	20.0	22.0	

凡例

倒伏・蔓化・青立程度						障害粒						品質							有望度				
0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	◎	○	◇	△	×
無	微	少	中	多	甚	無	微	少	中	多	甚	上の上	上の中	上の下	中の上	中の中	中の下	下	有望	やや有望	再検討	やや劣る	劣る

表4 令和5年度供試系統過年度調査成績(リョウユウ(東北190号))

栽培 条件	系統名 品種名	試験 年次	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏 程度 0-5	蔓化 程度 0-5	立枯 程度 0-5	青立 程度 0-5	茎長 (cm)	最下着 莢高 (cm)	主茎 節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効 莢数 (個/m ²)	子実重 (kg/a)	子実重 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質 1-7	障害粒				粗タンパク 含有率 (%)	粗脂肪 含有率 (%)	全糖 含有率 (%)	有望度 (案)
																			紫斑病 0-5	褐斑粒 0-5	裂皮 0-5	しわ 0-5				
標播	リョウユウ (東北190号)	R3	5/25	7/28	10/29	0.0	0.0	0.0	0.0	63	10.5	15.4	12.3	708	55.3	136	40.6	2.3	1	0	2	1	43.7	20.6	21.9	◇
		R4	5/25	7/29	10/12	0.0	0.0	0.0	1.0	49	13.3	13.1	7.4	584	25.6	108	31.9	4.0	0	0	1	3	40.9	22.1	20.8	△
		R5	5/25	7/18	11/10	0.0	0.0	2.3	1.0	53	7.3	14.9	11.3	640	19.1	77	24.1	6.7	2	3	1	0	43.5	20.3	21.3	△
		平均	5/25	7/25	10/28	0.0	0.0	1.0	1.0	56	11.0	15.0	11.0	645	34.0	108	33.0	5.0	1	1	2	2	43.0	21.0	22.0	
タシレイ	リョウユウ (東北190号)	R3	5/25	7/29	11/10	0.9	0.0	0.0	1.0	89	18.2	16.8	8.9	647	40.6	100	36.0	4.3	1	0	2	0	45.1	19.3	22.4	
		R4	5/25	7/31	10/12	0.0	0.0	0.0	1.0	59	19.0	14.2	5.8	602	23.7	100	28.8	4.0	0	0	1	1	42.6	21.0	20.9	
		R5	5/25	7/18	11/6	0.0	0.0	2.3	1.0	62	10.4	14.3	9.3	687	24.8	100	26.1	6.7	1	5	1	0	45.0	20.0	21.9	
		平均	5/25	7/26	10/30	1.0	0.0	1.0	1.0	71	16.0	16.0	8.0	646	30.0	100	31.0	5.0	1	2	2	1	45.0	21.0	22.0	
晩播	リョウユウ (東北190号)	R3	6/25	8/8	10/29	0.0	0.0	0.0	0.0	56	15.2	12.1	7.7	855	51.0	130	37.4	2.5	1	0	1	1	42.7	20.4	22.5	
		R4	6/24	8/7	10/18	0.0	0.0	0.0	0.5	53	15.3	13.5	5.2	639	34.1	102	36.9	5.0	0	0	0	1	42.8	21.2	20.9	
		R5	6/27	8/4	10/26	0.0	0.0	1.0	0.0	53	11.1	13.7	6.7	722	36.0	113	29.7	6.0	1	1	1	1	43.0	21.2	21.5	
		平均	6/26	8/7	10/25	0.0	0.0	1.0	1.0	54	14.0	14.0	7.0	739	41.0	115	35.0	5.0	1	1	1	1	43.0	21.0	22.0	
タシレイ	リョウユウ (東北190号)	R3	6/25	8/9	11/8	0.8	0.0	0.0	0.0	88	20.0	13.6	4.1	745	39.1	100	32.7	4.5	2	0	0	0	46.1	19.0	22.3	
		R4	6/24	8/9	10/23	0.0	0.0	0.0	0.5	47	18.9	12.0	3.9	562	33.5	100	33.0	4.5	0	0	0	0	45.0	19.9	21.0	
		R5	6/27	8/5	10/26	0.0	0.0	1.5	0.0	67	17.2	13.3	4.9	752	32.0	100	23.9	6.0	1	2	0	3	43.8	20.2	21.5	
		平均	6/26	8/8	10/30	1.0	0.0	1.0	1.0	68	19.0	13.0	5.0	687	35.0	100	30.0	5.0	1	1	0	1	45.0	20.0	22.0	

凡例

倒伏・蔓化・青立程度						障害粒						品質							有望度				
0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	◎	○	◇	△	×
無	微	少	中	多	甚	無	微	少	中	多	甚	上の上	上の中	上の下	中の上	中の中	中の下	下	有望	やや有望	再検討	やや劣る	劣る

表5 令和5年度供試系統過年度調査成績(東北191号)

栽培 条件	系統名 品種名	試験 年次	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏 程度 0-5	蔓化 程度 0-5	立枯 程度 0-5	青立 程度 0-5	茎長 (cm)	最下着 莢高 (cm)	主茎 節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効 莢数 (個/m ²)	子実重 (kg/a)	子実重 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質 1-7	障害粒				粗タンパク 含有率 (%)	粗脂肪 含有率 (%)	全糖 含有率 (%)	有望度 (案)
																			紫斑病 0-5	褐斑粒 0-5	裂皮 0-5	しわ 0-5				
標播	東北191号	R2	5/28	8/3	11/8	2.2	0.0	4.0	1.5	57	15.3	12.3	10.8	441	23.2	105	34.9	5.5	1	0	1	1	42.6	21.4	21.5	◇
		R3	5/25	7/28	11/17	0.3	0.0	0.5	1.0	83	11.3	15.2	10.4	706	52.8	130	42.2	2.7	1	0	1	0	46.3	19.6	21.8	◇
		R4	5/25	7/29	10/20	1.0	0.0	0.0	0.7	72	18.9	14.4	6.8	564	36.6	161	38.1	4.3	0	0	1	1	44.4	21.0	20.4	◇
		R5	5/25	7/18	11/10	0.0	0.0	2.3	0.0	71	11.3	15.2	10.5	551	21.4	143	36.5	5.7	1	2	2	0	45.5	19.9	21.7	◇
		平均	5/26	7/28	11/6	1.0	0.0	2.0	1.0	71	15.0	15.0	10.0	566	34.0	135	38.0	5.0	1	1	2	1	45.0	21.0	22.0	
タチナガハ	東北191号	R2	5/28	8/5	11/11	1.0	0.0	2.8	2.0	73	19.5	14.4	8.9	607	22.1	100	33.6	5.1	1	0	1	1	41.5	21.6	21.6	
		R3	5/25	7/30	11/20	0.8	0.0	0.0	1.0	93	23.3	17.0	8.7	502	40.6	100	45.7	1.8	1	0	1	0	43.9	19.8	23.2	
		R4	5/25	7/31	10/26	0.0	0.0	0.0	0.0	65	20.7	15.1	4.9	428	22.7	100	36.5	4.3	0	0	0	1	40.5	21.9	21.5	
		R5	5/25	7/19	11/10	0.0	0.7	3.0	2.0	75	11.9	15.6	7.8	413	14.9	100	33.2	6.0	0	3	1	0	43.1	21.2	22.0	
		平均	5/26	7/29	11/9	1.0	1.0	2.0	2.0	77	19.0	16.0	8.0	488	26.0	100	38.0	5.0	1	1	1	1	43.0	22.0	23.0	
晩播	東北191号	R2	6/25	8/15	11/16	1.7	0.0	0.0	0.0	79	28.3	12.1	6.2	619	25.6	77	36.6	4.5	1	0	1	0	44.9	20.3	21.4	
		R3	6/25	8/9	11/12	0.8	0.0	0.0	1.0	88	25.3	14.0	4.3	739	51.7	92	40.7	1.3	0	0	1	0	45.8	19.8	22.2	
		R4	6/24	8/7	11/5	0.0	0.0	0.0	1.0	70	26.6	13.4	5.2	448	34.2	130	41.8	4.5	0	0	0	1	45.4	20.2	21.5	
		R5	6/27	8/5	11/6	0.0	0.0	0.0	0.0	67	16.3	13.2	4.6	584	35.7	150	32.0	4.5	0	1	1	0	44.9	20.2	21.1	
		平均	6/26	8/9	11/10	1.0	0.0	0.0	1.0	77	25.0	14.0	6.0	598	37.0	113	38.0	4.0	1	1	1	1	46.0	21.0	22.0	
タチナガハ	東北191号	R2	6/25	8/15	11/12	1.9	0.0	0.0	0.5	86	25.5	13.6	6.5	769	33.1	100	33.3	4.5	1	0	0	0	42.8	20.3	22.4	
		R3	6/25	8/9	11/18	0.8	0.0	0.0	1.0	82	20.0	14.9	5.7	893	56.2	100	44.4	5.0	0	0	0	0	44.8	19.1	23.3	
		R4	6/24	8/9	10/30	0.0	0.0	0.0	1.0	55	23.7	13.1	3.7	413	26.4	100	36.8	5.0	0	0	0	0	42.7	20.6	21.3	
		R5	6/27	8/6	11/13	0.0	0.0	3.0	0.0	72	20.0	14.7	4.8	501	23.7	100	30.2	5.5	0	1	0	0	41.6	21.0	22.0	
		平均	6/26	8/10	11/11	1.0	0.0	1.0	1.0	74	23.0	15.0	6.0	645	35.0	100	37.0	5.0	1	1	0	0	43.0	21.0	23.0	

凡例

倒伏・蔓化・青立程度						障害粒						品質							有望度				
0	1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	◎	○	◇	△	×
無	微	少	中	多	甚	無	微	少	中	多	甚	上の上	上の中	上の下	中の上	中の中	中の下	下	有望	やや有望	再検討	やや劣る	劣る

令和5年度 大豆優良品種決定調査 現地調査成績

(登米農業改良普及センター)

4 耕種概要 試験地：登米市豊里町 担当農家：農事組合法人TMフアーマーズ

前作：大豆	播種日：6月19日	1株当たり本数：	2	本/株
条間：70.0 cm	株間：20.0 cm	栽培密度：	14.3	本/m ²
	様式：2条機械播種			

土作り資材 (kg/a)：	なし	資材名	資材名	施用量	施用量
		タイニー		2	
		有機なる大地		30	

基肥・追肥 (成分量, kg/a)：

月/日	肥料名	N	P	K
6/8	大豆1発くん	5	1.4	1.4
追肥				

中耕培土 (実施月日)

1回目	7/13	2回目	7/26	3回目
-----	------	-----	------	-----

除草剤：

月/日	薬剤名	月/日	薬剤名
6/8	トリアライド乳剤、プロロップス乳剤	7/24	ホルトプロアル
6/26	ハワカザン		
7/7	7チタクトン乳剤		

病害虫防除：

月/日	薬剤名	月/日	薬剤名
6/7	クルザンMAX	8/31	スミチオン乳剤
8/22	ミスター207プロ		
8/22	7チタクトン乳剤		

1 気象経過及び生育経過の概要

(気象経過) (6月) 16日に100mmを超える大雨があり、6月の降水量は平年比180%となりました。その後は、気温が25℃を越える夏日が続きました。東北南部の降雨入りは平年より1日早い6月11日頃でした。
 (7月) 気温は平年より高く推移し、下旬には30℃を越える日が多くなりました。日照時間は平年比155%となり、高温多湿の月となりました。東北南部の梅雨明けは平年より2日早い7月22日頃でした。
 (8月) 連日最高気温が30℃を越え、下旬になっても気温の下がらない日が続きました。降水量は平年比61%となり、雨の少ない月となりました。
 (9月) 上、中旬に30℃を越える日が多くあり、平均気温も高く推移しました。
 (10月) 平均気温はおおむね平年夏まで推移しましたが、日照時間は平年の141%となりました。降水量は平年の40%となりました。
 <生育経過>
 (播種) 6月19日
 (出芽) 6月25日、出芽後の生育は概ね良好。
 (生育・開花期) 7月中旬、下旬の降雨により、生育が停滞したがその後回復しおおむね開花期に生育。開花期は東北191号が8月5日、材料 No.8月10日、(子葉肥大・成熟期) 子葉肥大～成熟期は、開花期以降、少雨・高温が続き、子葉肥大に影響があったと見られた。特に材料 No.では葉焼け症状が見られ、肥大日数を要した。・成熟期は東北191号が11月1日、材料 No.8月11月16日。

2 障害の種類と概況 (病害虫、自然災害等発生状況等)

開花期以降の少雨・高温が子葉肥大に影響があったと思われる。

3 その他特記事項

ほ場排水:

暗渠	有・無	明渠	有・無	排水性	良・やや良・やや不良・不良
----	-----	----	-----	-----	---------------

5 調査結果概要 (観察調査)

品種または系統	播種期 月/日	出芽期 月/日	出芽 良否	開花期 月/日	成熟期 月/日	蔓化	倒伏	青立	病害虫発生程度 (立毛)	
									べと病	葉焼病
東北191号	6/19	6/25	良	8/5	11/1	0	0	0-4	0-4	0-4
タチナガハ	6/19	6/25	良	8/10	11/15	0	0	0	1	0

注1) 出芽良否 良: 出芽率80%以上 中: 出芽率50~80% 不良: 50%以下

注2) 蔓化・倒伏・青立ち・病害虫 0: 無 1: 少 2: 中 3: 多 4: 甚

6 調査結果概要 (生育調査・収量調査・品質調査)

品種または系統	主莖長 cm	最下着莖高 cm	主莖節数 節/本	分枝数 本/本	有効莖数 莖/m ²	a当たり収量		子実重比率 対タチナガハ	百粒重 g	被害粒						外觀品質 1-7				
						全重 kg/a	子実重 kg/a			紫斑 %	褐斑 %	裂皮 %	虫害 %	莢ずれ %	しわ %		腐敗 %	未熟 %		
東北191号	53.4	8.2	13.2	3.9	612	82.4	37.8	105	31.4	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	0.0	0.0	2.0
タチナガハ	56.5	10.1	14.3	4.9	509	69.6	36.1	100	35.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	2.0

注3) 外觀品質 1: 上上 2: 上中 3: 上下 4: 中上 5: 中中 6: 中下 7: 下

注4) 被害粒のうち、必須調査項目

7 供試品種または系統の概評

品種または系統名	有望度	概評 (できるだけ詳しく記載してください。)
東北191号	○	タチナガハに比べ、開花期及び成熟期が早く、蔓化や倒伏、病害虫も見られず、生育揃いも良好。収量はやや優り、品質は同程度。最下着莖高がやや低いが、有望

※) 有望度 ◎: ごく有望 ○: 有望 ◇: 中または再検討 △: やや劣る ×: 劣る

令和5年度 大豆優良品種決定調査 現地調査成績 (美里農業改良普及センター)

4 耕種概要

耕種概要 試験地：大崎市田尻 担当農家：大沢地域集落営農組合

前作：大豆	播種日：6月1日	1株当たり本数：	2	本/株
条間：75.2 cm	株間：20.5 cm	裁植密度：	13.0	本/m ²
		様式：機械播き		

土作り資材 (kg/a)：	なし	資材名	施用量	資材名	施用量
		リンスター	0.7		
		けいふん	7.5		

基肥・追肥 (成分量, kg/a)：		肥料名	N	P	K
		5/31	大豆化成550	0.1	0.3
		追肥			0.2

中耕培土 (実施月日)				
1回目	6/27	2回目	7/3	3回目
				7/18

除草剤：				
月/日	薬剤名	月/日	薬剤名	
6/2	フルミオWDG			
6/2	フィールドスター			

病害虫防除：				
月/日	薬剤名	月/日	薬剤名	
8/24	プレバソンフロアブル			
8/31	トレボンスカイMC			
8/31	トライフロアブル			

1 気象経過及び生育経過の概要

<気象経過>
 (6月) 上旬は晴天が続き、気温は平年を上回った。降水量はほぼ平年並みだったが、その後6月中旬～下旬にかけての断続的な降雨により播種が遅れ(6月中旬の降水量：201.5mm 平年比165%)、播種作業終了は6月下旬となった。東北南部の梅雨入りは平年より1日早い6月11日頃であった。
 (7月) 気温は平年より高く推移した。7月には19日、20日にあわせて105mmのまとまった降雨があったが、7月全体としては降水量は平年並みで多雨傾向であった。なお東北南部の梅雨明けは平年より2日早い7月22日頃であった。
 (8月) 8月には12日に42mmの降雨があったほかにはほぼ降雨がなく、記録的な高温も重なって開花時期に水分が不足し、ほ場によっては極端な乾燥状態が続いた(8月の降水量平年比43%)。
 (9月) 9月に入っても高温傾向が続いたが、上旬にまとまった降雨があり(6日：131.5mm) 降水量は平年を上回った。
 (10月) 10月も高温傾向が継続するものの、平年との差は縮小傾向であった。
 (11月) 平均気温は一時平年を一回り超え日もあったが概ね平年並みから高く、日照時間はタンレイ10月25日、東北191号10月31日、タチナガハ11月2日、上旬～下旬が平年より少なく、11月全体で平年比70%となった。
 <生育経過>
 (播種・出芽期) 播種以降順調に生育、出芽期は6月9日、出芽後の生育は概ね良好。(生育・開花期) 生育期間を通じて高温の影響で開花も早まり、開花期は7月24日～28日となった。(子実肥大・成熟期) 子実肥大～成熟期は、継続した高温傾向で旺盛な生育を示した。タチナガハは青立ちら傾向が観察されたほか、東北191号はなびき倒伏が目立った。成熟期はタンレイ10月25日、東北191号10月31日、タチナガハ11月2日。

2 障害の種類と概況 (病害虫、自然災害等発生状況等)

管理については概ね良好で、イネ科雑草やタネ類の発生がやや見られたほかは、目立った障害は確認されなかった。

3 その他特記事項

なお、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性は判然としなかった。

5 調査結果概要 (観察調査)

品種または系統	注1 播種期		注2 出芽期		注2 出芽 良否		注2 開花期		注2 成熟期		注2 倒伏		注2 青立		注2 病害虫発生程度 (立毛)		
	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日	月/日
東北191号	6/1	6/9	良	7/24	10/31	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タチナガハ	6/1	6/9	良	7/25	11/2	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
タンレイ	6/1	6/9	良	7/24	10/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

<備考>

注1) 出芽良否 良：出芽率80%以上 中：出芽率50~80% 不良：50%以下

注2) 蘗化・倒伏・青立ち・病害虫 0：無 1：少 2：中 3：多 4：甚

6 調査結果概要 (生育調査・収量調査・品質調査)

品種または系統	主莖長 cm	最下 莖葉 高 cm	主莖 節数	分枝数 本/本	有効 莖数 莖/m ²	注4 a 当たり収量		注4 子実重比率		百粒重 g	注4 被害粒					注3 外観 品質 1-7				
						全重 kg/a	子実重 kg/a	%	%		紫斑 %	褐斑 %	裂皮 %	虫害 %	莢ずれ %		しわ %	腐敗 %	未熟 %	
																				kg/a
東北191号	55.9	10.8	13.4	4.5	50.4	105	49	120	104	30.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	1.0	4.0
タチナガハ	53.0	10.7	14.2	5.3	46.1	83	41			31.5	1.0	1.0	3.0	2.0	0.0	0.0	3.0	0.0	1.0	5.0
タンレイ	53.6	10.3	13.6	3.9	64.5	91	48			25.0	1.0	0	0.0	1.0	11.0	0.0	3.0	0.0	0.0	6.0

注3) 外観品質 1：上上 2：上中 3：上下 4：中上 5：中中 6：中下 7：下

注4) 被害粒のうち、必須調査項目

7 供試品種または系統の概評

品種または系統名	有望度	概評 (できるだけ詳しく記載してください。)
東北191号	○	生育はタチナガハと同程度からやや早い。百粒重がタチナガハより小さいが青立ちは見られず、収量の面で優れる。 なお、サイズスチセンチュウに対する抵抗性は判然としなかった。

※) 有望度 ◎：ごく有望 ○：有望 ◇：中または再検討 △：やや劣る ×：劣る

令和5年度 大豆優良品種決定調査 現地調査成績

(栗原農業改良普及センター)

1 気象経過及び生育経過の概要

(気象経過)

8月下旬以降生育期間全般の気温は、平年より高く推移した。特に7月下旬から9月中旬までは最高気温が30℃を超えるなど著しく高い値で推移した。日照時間も平年を上回り、特に8月の日照時間は大きく上回った。一方で、降水量は、生育期間全般で平年を下回ったものの、日降水量が20mmを超える日が7日、うち30mmを超える日が4日であった。

(生育経過)

6月22日に播種、出芽は6月26日に確認した。いずれの品種も一斉に出芽し良好であった。7月19日、20日の両日で60mmを超える降雨があったが、ほ場の排水もよく、生育に影響は全く順調であった。開花期は、タチナガハが8月2日、東北191号は8月5日であった。子葉肥大から成熟期にも好天が続き、一部莢ずれを確認した。成熟期はタチナガハが10月26日、東北191号が10月23日であった。

2 障害の種類と概況 (病害虫、自然災害等発生状況等)

播種前に雑草が繁茂した状態であったことから雑草を悪念していたが、生育中鹽以降はアサガオなどにほ場全体が覆われる状態になった。調査区については、担当農家が除草を行ったため、調査には至らなかった。東北191号で倒伏を確認。割合は、5~6割り程度であった。

3 その他特記事項

ダイズシストセンチュウによる被害があるほ場を調査ほ場に選定したが、今年はその症状を確認することができなかった。このことから、抵抗性については判断しなかった。

4 樹種概要

試験地：栗原市志波姫 担当農家：佐藤 清史

前作：大豆	播種日：6月22日	1株当たり本数：2	本/株
条間：75.0 cm	株間：20.0 cm	栽植密度：13.4	本/m ²
様式：手播き			

土作り資材 (kg/a)：	なし	資材名	施用量	資材名	施用量
鶏糞	300kg/10a				

基肥・追肥 (成分量, kg/a)：

月/日	肥料名	N	P	K
6/22	パワフル大豆一発500	5	2	2
追肥				

中耕培土 (実施月日)

1回目	7/6	2回目	7/16	3回目	8/10
-----	-----	-----	------	-----	------

除草剤：

月/日	薬剤名	月/日	薬剤名
6/23	プロールプラス		
8/13	ホルトフロアブル		
8/13	大豆バサグラン		

病害虫防除：

月/日	薬剤名	月/日	薬剤名
8/30	プレバソンフロアブル5		
8/30	アミスター20フロアブル		
9/11	アグロスリン乳剤		

ほ場排水:

暗渠	有	明渠	有・無	排水性	◎・やや良, やや不良・不良
----	---	----	-----	-----	-------------------

5 調査結果概要 (観察調査)

品種または系統	播種期 月/日	出芽期 月/日	出芽 良否	開花期 月/日	成熟期 月/日	蔓化 0-4	倒伏 0-4	青立 0-4	病害虫発生程度 (立毛)	
									べと病 0-4	葉焼病 0-4
東北191号	6/22	6/26	良	8/5	10/23	0	2	0	0	0
タチナガハ	6/22	6/26	良	8/2	10/26	0	0	0	0	0
タンレイ	6/22	6/26	良	8/2	10/18	0	0	0	0	0

注1) 出芽良否 良: 出芽率80%以上 中: 出芽率50~80% 不良: 50%以下

注2) 蔓化・倒伏・青立ち・病害虫 0: 無 1: 少 2: 中 3: 多 4: 甚

6 調査結果概要 (生育調査・収量調査・品質調査)

品種または系統	主茎長 cm	最下 着莖 高 cm	主茎 節数	分枝数 本/本	有効 莖数 本/本	a当たり収量		子実重比率		百粒重 g	被害粒					外観 品質 1-7							
						全重 kg/a	子実重 kg/a	タチナガハ %	タンレイ %		紫斑 %	褐斑 %	裂皮 %	虫害 %	莢ずれ %		しわ %	腐敗 %	未熟 %				
東北191号	58.0	15.0	14.0	3.7	775	71	32.7	109	95	29.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0		
タチナガハ	51.6	13.8	14.3	3.3	415	64	30.1	100	87	31.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	
タンレイ	54.6	11.7	14.0	3.7	663	86	34.5	115	100	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0

注3) 外観品質 1: 上上 2: 上中 3: 上中 4: 中上 5: 中中 6: 中下 7: 下

注4) 被害粒のうち、必須調査項目

7 供試品種または系統の概評

品種または系統名	有望度	概評 (できるだけ詳しく記載してください。)
東北191号	◇	収量・品質とも、対照品種の「タチナガハ」を上回った。収穫作業性も最下着莖高もタチナガハ並であることが確認された。一部、なびき程度の倒伏が見られた。なお、ダイズシストセンチュウへの抵抗性は判然としなかった。

※) 有望度 ◎: ごく有望 ○: 有望 ◇: 中または再検討 △: やや劣る ×: 劣る

豆腐加工試験結果歴年（一般財団法人日本穀物検定協会神戸分析センター）

年産	品種・系統名	豆乳抽出試験				豆腐加工試験		
		たん白質 (%)	抽出率 (%)	固形分 (%)	色調	粘度 (mPa・s)	破断強度 (g/cm ²)	pH
2022	東北191号	5.1	78.9	9.90 C	83.5	15.0 B	63 B	6.3 C
	タチナガハ	4.6	79.0	9.78 C	84.1	12.1 B	55 C	6.3 C
	ミヤギシロメ	4.7	79.1	9.94 C	84.1	10.9 B	47 C	6.3 C
	タンレイ	5.1	78.1	9.90 C	83.0	22.1 B	67 B	6.3 C

注1) 試験及び分析方法は分析機関の常法に従って実施。

注2) アルファベットのA社の評価基準（参考）に基づく評価を示す。A、B、Cの順に加工適性が良いことを示す。

令和5年度主要農作物品種審査会

大豆

審議事項

令和6年2月

宮城県

令和6年度優良品種決定調査に供する品種(大豆)について(案)

イ 要望される品種

良質多収で機械による収穫適性及びタンパク含量が高く、加工適性に優れた以下の特性を有する品種。

- イ) 晩播栽培に適する品種。
- ロ) ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い品種。
- ハ) 「タンレイ」より紫斑病抵抗性が強い品種。

ロ 供試品種及び系統

区分	早晩性	基本調査 (供試年数)			現地調査	
		予備調査	本調査	要望される品種		
普通	早生		東山 239 号 (4)	ハ	東山 239 号 (1)	
	中生早		関東 155 号 (1)	イ		
	中生	(標) タンレイ				
	中生晩			東北 191 号 (4)	ロ	東北 191 号 (3)
				北陸 6 号 (1)	イ	
				東北 194 号 (1)	イ	
		(標) タチナガハ				
		(比)ミヤギシロメ、(比)すずみのり				
計		(未確定)	5		2	

注1) (標)：標準品種(対照)を示す。
 注2) (比)：比較品種を示す。
 注3) 予備調査の供試系統は、令和6年3月末頃に確定する見込み。

ハ 令和6年度大豆優良品種決定調査供試系統の特性概要

イ) 本調査

○収量、品質は令和5年度調査結果

●育成地の評価・特記事項

系統名	供試年数	要望品種	交配組合せ	特性の概要
東山239号	4	ハ	東山213号 (シュウレイ) / 東山212号	○収量が優る。 ○外観品質が優る。 ○青立ちが少ない。 ●紫斑病抵抗性“強～極強”。 ●SMV抵抗性(ABCD)。 ●SCN抵抗性“中”。 令和6年度は栽培特性の年次変動, 加工適性および現地適応性について検討。
東北191号	4	ロ	里のほほえみ / ふくいぶき	○収量が優る。 ○青立ちが少ない。 ●SMV抵抗性(ABCD)。 ●SCN抵抗性“強”。 ●難裂莢性を有する。 令和6年度は栽培特性の年次変動, 加工適性および現地でのSCN抵抗性について検討。
関東155号	1	イ	作系176 / Santee.	○収量が優る。 ○外観品質が優る。 ○青立ちが少ない。 ●SMV抵抗性(AA2BCD)。 ●難裂莢性を有する。 令和6年度は栽培特性の年次変動について検討。
北陸6号	1	イ	-	○収量が優る。 ●SMV抵抗性(AA2BCD)。 ●難裂莢性を有する。 令和6年度は栽培特性の年次変動について検討。
東北194号	1	イ	サチユタカ / LD00-3309	●海外多収品種導入。 ●難裂莢性を有する。 令和6年度は密植栽培の適応性について検討。

注) SMV:ダイズモザイクウイルス 大豆に感染するウイルス病の一種。A、A2、B、C、D、Eの6つの系統がある。

SCN:ダイズシストセンチュウ 大豆を加害するセンチュウの一種。

ロ) 予備調査

●育成地の評価

系統名	要望品種	交配組合せ	特性の概要
未確定			

【補足資料】「東北194号」を再調査する経緯

- 大崎管内で子実トウモロコシ、大豆、乾田直播水稻の輪作体系の試験を実施（農水省委託プロ：令和5年度～令和7年度、代表機関：農研機構東北農研）
- 本プロジェクトは省力低コスト栽培体系の確立を目標としており、大豆においては**密植適応性で多収性の特徴を持つ「東北194号」を試験栽培**している
- 委託プロにはJA古川も参画しており、将来的に**現場からの品種導入の要望も想定**される
- 古試では令和4年度の予備調査で「東北194号」を供試しているが、その際は慣行の栽植密度（畝間75cm、株間20cm、2本立て）条件の評価のみ
- 現場からの要望を想定して、**密植栽培（畝間37.5cm、株間12cm、1本立て）条件の評価**を行っておく必要がある、令和6年度に供試したいと考えている

令和4年度「東北194号」の調査結果

系統・品種名	概評 (対照品種との比較)									
	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	最下着莢高 (cm)	子実重 (7.3mm) (kg/a)	同左 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質	有望度	長所	短所
東北194号	(標播)	7/29	10/13	11.6	13.5	57	26.2	3.0	・外観品質が優る	・最下着莢高が低い ・収量が劣る ・百粒重が小さい
	(晩播)	8/7	10/21	14.4	21.6	64	28.1	4.0	×	
(対)タレイ	(標播)	7/31	10/12	19.0	23.7	100	28.8	4.0		最下着莢高が低く、収量が劣り、百粒重が小さいので打ち切り
	(晩播)	8/9	10/23	18.9	33.5	100	33.0	4.5		

品質は、上の上:1、上の中:2、上の下:3、中の上:4、中の中:5、中の下:6、下:7を示す。

参 考 資 料

目 次

I	宮城県優良品種決定基準	1
II	宮城県主要農作物優良品種区分基準	2
III	宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について	3
IV	宮城県主要農作物の基幹品種，特定品種の区分	4
V	優良品種決定調査の方法 (宮城県主要農作物優良品種決定調査要領(令和2年4月1日施行))	5
VI	宮城県優良品種決定調査方法	6
VII	主要農作物種子条例	8
VIII	主要農作物品種審査会構成員名簿	10
IX	優良品種特性表(水稲)	11
X	優良品種特性表(大豆)	12
X I	優良品種特性表(麦類)	13
X II	水稲優良品種の年次別作付面積	14
X III	大豆優良品種の年次別作付面積	15
X IV	麦類優良品種の年次別作付面積	16

I 宮城県優良品種決定基準

(令和2年9月18日決定)

1 優良品種の採用基準

知事は、優良品種に採用する場合には、おおむね次の基準のいずれかを満たしている品種のうち、普及上特に支障となる欠点のないものの中から選択するものとする。

(1) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案し、既存の優良品種（以下「対照品種」という。）と比較して明らかに優れていると認められること。ただし、優良品種に採用しようとする品種が、普及対象地域の範囲又は生産物の用途について制限のある場合を妨げない。

(2) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて、対照品種と比較して明らかに優れていると認められること。

2 優良品種の廃止基準

知事は、優良品種採用後次のいずれかに該当すると認められるときは、当該優良品種を廃止することができる。

(1) 優良品種の特性が変化し、1の基準を満たさなくなった場合

(2) 普及対象地域で栽培上重要とされる特性又は生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点が明らかになった場合

(3) 当該品種に係る作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しが無い場合

(4) 新たな優良品種によって代替が可能である場合

(5) 当該品種の種子の供給が困難となった場合

Ⅱ 宮城県主要農作物優良品種区分基準

(令和2年9月18日決定)

(目的)

- 1 本県が推奨する主要農作物品種(水稻・麦類・大豆)を基幹品種及び特定品種の2区分とし、適地適品種の作付を推進する。

(名称区分)

- 2 優良品種は次の名称に区分する。

(1) 基幹品種

生産・流通対策上、基幹となる品種

(2) 特定品種

基幹品種を補完する品種

(区分基準)

- 3 品種の構成は、基幹品種を熟期別に設定し、さらに、これを補完する特定品種を配することとする。

採用については、「宮城県優良品種決定基準」(令和2年9月18日決定)

「優良品種の採用基準」1に定めるもののほか、下記の項目に照らし総合的に勘案して決定する。

(1) 基幹品種

生産、流通対策上、基幹となる品種として生産振興を図る必要のある品種

(2) 特定品種

ア 特定の気象・土壌条件に栽培が適している品種

イ 特定の用途に対し、一定量の需要が見込まれる品種

ウ 作業体系及び各種危険分散の要求を満たす品種

エ 生産者並びに消費者ニーズ等が特に強い品種

オ 暫定的に普及が望まれる品種

Ⅲ 宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について(内規)

(令和2年9月18日決定)

主要農作物(水稲・麦類・大豆)基幹・特定品種の採用・廃止については「宮城県優良品種決定基準」及び「宮城県主要農作物優良品種区分基準」に定めるもののほか、以下により行うものとする。

- 1 すでに普及している品種(県優良品種以外のもの)の取り扱いについて
 過去3ヶ年、概ね下記面積を超えて安定的に栽培されている品種については、優良品種決定調査に供試することを検討する。
 なお、これまで優良品種決定調査に参考品種等として供試し、特性が明らかになっている品種については、既存データを活用し、検討することができるものとする。

水 稲	麦 類	大 豆
2 0 0 ha	1 0 0 ha	1 0 0 ha

- 2 基幹・特定品種の移行について
 - (1) 特定品種から基幹品種への移行について
 特定品種のうち、下記面積を上回り、生産・流通対策上、特に必要とされるものについては、基幹品種への移行を検討する。
 - (2) 基幹品種から特定品種への移行について
 基幹品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、特定品種への移行を検討する。

作物名	面 積	備 考
水 稲	2 0 0 ha	類別区分の指定基準数量1,000tによる
麦 類	2 0 0 ha	銘柄区分Ⅱの基準数量500t以上による
大 豆	3 0 0 ha	1銘柄販売ロット500t以上

- 3 基幹・特定品種の廃止について
 基幹・特定品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、廃止を検討する。

水 稲	麦 類	大 豆
1 0 0 ha	5 0 ha	5 0 ha

- 4 その他
 上記以外に必要な事項については、主要農作物品種審査会において検討を行うものとする。

IV 宮城県主要農作物の基幹品種、特定品種の区分

1 水稲

	基幹品種	特定品種
早 生	やまのしずく	ゆきむすび(低アミロース米)
中 生	ひとめぼれ, ササニシキ, まなむすめ, だて正夢	トヨニシキ, げんきまる, 東北194号, 金のいぶき
晩 生	—	コシヒカリ, つや姫
も ち	みやこがねもち	ヒメノモチ, こもちまる
特 殊 用途米	蔵の華 (酒造好適米)	たきたて(低アミロース米)

2 麦類

(1) 小 麦

	基幹品種	特定品種
中 生	シラネコムギ, 夏黄金	あおぼの恋

(2) 大 麦

	基幹品種	特定品種
早 生	シュンライ	ホワイトファイバー
中 生	ミノリムギ	—

3 大豆

	基幹品種	特定品種
中 生	タンレイ, あやこがね	すずほのか, タチナガハ, きぬさやか, すずみのり
晩 生	ミヤギシロメ	—

V 優良品種決定調査の方法

(宮城県主要農作物優良品種決定調査要領(令和2年4月1日施行))

1 調査対象品種

(1) 優良品種決定調査(以下「調査」という。)の対象となる品種は、次のすべての要件を満たすものの中から主要農作物品種審査会の調査審議を経て決定するものとする。

ア 調査に支障のない程度に品種の固定が進んでいること。

イ 調査に必要な種子が十分に供給されること。

ウ 県が定めた病虫害抵抗性その他の主要な特性について、検定により明らかにされていること。

エ 県の既存の優良品種との比較栽培試験等により、改善された点が認められること。

(2) (1)の品種の育成者は、調査を受けようとする品種について、(1)のアからエまでの事項に関する資料を添えて県に次に掲げる期日までに申請を行うものとする。ただし、あらかじめ県と協議して別の期日を設けた場合には、この限りではない。

稲及び大豆	12月末日
麦類	7月末日

2 調査の期間

(1) 調査の期間は、原則として3年とする。ただし、3年未満の調査であっても他の都道府県その他の機関の調査結果から調査対象品種の特性が明らかかな場合又は県が必要と認める場合には、この期間を短縮することができる。

(2) 基本調査は、調査対象品種の特性を明らかにするため、第1年目に予備調査、第2年目以降に本調査を行う。ただし、当該品種の特性が明らかかな場合又は県が必要と認める場合には、予備調査を省略することができる。

(3) 現地調査は、基本調査の予備調査が終了してから行う。

3 調査に用いる品種

調査には、次の品種を含めなければならない。

(1) 標準品種

原則として生産・流通対策上基幹となる優良品種として県内に普及しており、調査対象品種の比較対象の基準となる品種

(2) 比較品種

特定の形質を比較するための品種

VI 宮城県優良品種決定調査方法

(令和2年9月18日決定)

- 1 品種の育成者が優良品種決定調査を受けようとする品種について、検定により明らかにしておくべき特性

農作物 の種類	特性の項目
稲	出穂期, 成熟期, 稈長, 穂長, 精玄米重, 玄米千粒重, 品質, 食味, 病虫害抵抗性(葉いもち, 穂いもち, 紋枯病等), 障害抵抗性(耐冷性, 高温登熟 耐性, 耐倒伏性, 穂発芽性等), 実需者の評価
麦類	出穂期, 成熟期, 播性程度, 稈長, 穂長, 子実重, 容積重, 千粒重, 品質, 穂発芽性, 加工適正(製粉性, 粉色, 精麦白度等), 病虫害抵抗性(赤さび病, うどんこ病, 赤かび病), 障害抵抗性(耐倒伏性, 耐寒雪性), 実需者の評価
大豆	開花期, 成熟期, 主茎長, 分枝数, 子実重, 有粒重, 種皮色, 光沢, 品質, 病虫害抵抗性(ウイルス病, 立枯性病害, 紫斑病, センチュウ), 障害抵抗性(耐倒伏性, 裂皮の難易), 実需者の評価

- 2 優良品種決定調査の耕種概要の基準

調査の種類	農作物 の種類	区 制		耕種法の種類
		1区面積	区 数	
基 本 調 査	稲	6 m ² 以上	2区 以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等につ いて, 本県に最も普及している耕種様式 により調査を行う。
	麦類	10m ² 以上		
大豆	12m ² 以上			
調 査	稲	6 m ² 以上	3区 以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等につ いて, 本県に最も普及している耕種様式 を原則として複数用いて調査を行う。
	麦類	10m ² 以上		
	大豆	12m ² 以上		
現地調査	稲 麦類 大豆	20m ² 以上	2区 以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等につ いて, 優良品種適応地域ごとに最も普及 している耕種様式により調査を行う。

3 優良品種決定調査の調査項目の基準

調査の種類		調査の項目
基本調査	予備調査	<p>1 稲 播種期, 移植期(直播の場合は入水期), 出穂期, 成熟期, 発芽の良否(直播又は陸稲の場合に限る。), 稈長, 穂長, 穂数, 全重, 玄米収量, 標準品種と玄米収量の比較比率, 玄米千粒重, 玄米品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>2 麦類 播種期, 出穂期, 成熟期, 発芽の良否, 稈長, 穂長, 穂数, 子実収量, 千粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>3 大豆 播種期, 開花期, 成熟期, 発芽の良否, 茎長, 分枝数, 子実収量, 百粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p>
	調査	<p>1 稲 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 心白又は腹白の多少, 搗精歩合及び食味</p> <p>2 麦類 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 容積重及び子実加工品の品質</p> <p>3 大豆 予備調査の項目に同じ。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 子実加工品の品質</p>
現地調査		<p>1 稲 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>2 麦類 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>3 大豆 基本調査の予備調査の項目から, 分枝数を除いたもの。</p>

Ⅶ 主要農作物種子条例

[令和元年宮城県条例第59号]

第三章 主要農作物品種審査会

(設置)

第十八条 知事の諮問に応じ、優良品種に関する重要事項を調査審議するため、主要農作物品種審査会（以下「審査会」という。）を置く。

(所掌事務)

第十九条 審査会は、次に掲げる事項を調査審議する。

- 一 優良品種の決定基準に関する事項
- 二 優良品種決定調査に供される品種に関する事項（当該品種に係る優良品種決定調査の継続及び中止に関することを含む。）
- 三 優良品種決定調査の方法に関する事項
- 四 優良品種の決定及び廃止に関する事項
- 五 その他優良品種に関し必要な事項

(組織等)

第二十条 審査会は、委員十人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

- 一 学識経験を有する者
- 二 関係団体の役員又は職員
- 三 関係行政機関の職員
- 四 県の職員

3 前項第一号に掲げる者のうちから任命される委員の任期は、二年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第二十一条 審査会に、会長一人及び副会長二人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、審査会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐するとともに、会長があらかじめ定めた順序により、会

長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第二十二條 審査会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 審査会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 審査会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事)

第二十三條 審査会に、幹事を置き、県の職員のうちから、知事がこれを任命する。

- 2 幹事は、審査会の所掌事務について、委員を補佐する。

(会長への委任)

第二十四條 この章に定めるもののほか、審査会の運営に関し必要な事項は、会長が審査会に諮って定める。

Ⅷ 主要農作物品種審査会構成員名簿

(令和5年10月)

役職名	氏名	所 属 及 び 職 名
会 長	本間 香貴	東北大学大学院農学研究科作物学研究室 教授
副会長	佐々木 利幸	全国農業協同組合連合会宮城県本部 米穀部長
〃	高橋 久則	公益社団法人みやぎ農業振興公社 常務理事
委 員	大川 亘	尚綱学院大学総合人間科学系理工・自然部門 准教授
〃	鳥羽 大陽	宮城大学食産業学群食資源開発学類 准教授
〃	高橋 清範	一般社団法人宮城県農業会議 副会長
〃	加藤 房子	宮城県生活協同組合連合会 常務理事
〃	大崎 早苗	宮城県農業士会
〃	小粥 恵子	仙台市経済局農業振興課 課長
〃	齋藤 裕	宮城県農政部 副部長(技術担当)
幹 事	千葉 啓嗣	宮城県農政部 みやぎ米推進課長
〃	佐藤 潤一	宮城県農政部食産業振興課 総括課長補佐
〃	門間 陽一	宮城県農政部農業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
〃	佐々木 都彦	宮城県古川農業試験場 作物育種部長
〃	滝澤 浩幸	宮城県古川農業試験場 作物栽培部長

Ⅱ 水稻優良品種特性表 (R1~R5)

種類	品名	米産 (育成場所、育成年次)	区分 年次	出穂 期	成熟 期	穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数	本型 数	稈 数	稈 数	収量率(%)				実重	千粒重	実重	千粒重	実重	千粒重	実重	千粒重	実重	千粒重		
												脱粒	精米	白米	白米												
																										実積	実積
種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種		
早生	やまのしずく	中御04号(崎むびき寺) × ところまち (宮城古川農試、平19)	特 幹	7/30	9/5	78.2	18.3	471	個 種数	或	或	強	強	強	或	581	21.5	5.1	2.8	2.0	短	短	上	上	上	上	西駒丘陵地帯、三股沿岸地帯 及び山間高冷地帯
	ササニシキ	興野22号(ツツニシキ) × ササニシキ (宮城古川農試、昭58)	特 幹	8/3	9/17	84.1	18.1	532	種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	606	21.0	5.1	2.7	2.0	稀	稀	上	上	中	平坦地帯	
	トヨニシキ	東北19号(ササニシキ) × 興野28号 (東北農試、昭44)	特 定	8/3	9/14	85.2	18.9	483	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	778	21.3	5.1	2.8	2.0	少	少	上	上	中	平坦地帯	
	中生	ひとめぼれ	コシヒカリ × 初皇 (宮城古川農試、平3)	特 幹	8/4	9/11	82.5	18.3	508	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	735	21.7	5.1	2.8	2.0	や	や	上	上	中	平坦地帯
	うるち	まなむすめ	チヨニシキ × 東北145号(ひとめぼれ) (宮城古川農試、平9)	特 幹	9/3	9/10	79.4	18.7	438	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	734	23.6	5.3	2.8	2.0	や	や	上	上	中	平坦地帯及び西駒丘陵地帯、 三股沿岸地帯の標高の低い地 帯
		東北194号	ササニシキ × ひとめぼれ (宮城古川農試、平成23)	特 定	9/4	9/14	81.7	18.4	527	種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	777	21.2	5.1	2.7	2.0	少	少	上	上	中	北駒・南駒丘陵地帯、仙台高冷 地帯、西駒丘陵地帯
晩生	やんきまる	北越189号 × 東北152号(まなむすめ) (宮城古川農試、平21)	特 定	9/7	9/17	83.1	19.4	387	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	787	23.4	5.2	2.8	2.0	や	や	上	上	中	山間高冷地帯を除く県下一円 (地方が高冷地帯)	
	コシヒカリ	鹿林22号 × 豊林1号 (標準農試、昭31)	特 定	9/14	9/23	88.9	18.5	441	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	745	21.6	5.1	2.8	1.9	稀	稀	上	上	中	南部平野地帯	
	つや姫	山形70号 × 東北164号 (山形農試、平19)	特 定	8/12	9/24	80.3	17.4	483	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	756	21.7	5.1	2.8	2.0	稀	稀	上	上	中	南部丘陵地帯、西駒丘陵地帯	
もち	ヒメノモチ	大系227 × こがねもち (東北農試、昭47)	特 定	7/30	9/5	85.0	19.2	408	個 種 数	或	或	強	強	強	強	699	22.2	5.2	2.8	2.0	稀	稀	上	上	中	山間高冷地帯、西駒丘陵地帯	
	みやこがねもち (こがねもち)	鹿野90号 × 鹿林7号 (新潟農試、昭33)	特 幹	8/9	9/19	94.2	17.0	390	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	773	21.6	4.9	2.9	2.0	稀	稀	上	上	中	山間高冷地帯を除く県下一円	
新形早米	こちまる	もちむすめ × 東北181号 (宮城古川農試、平24)	特 定	8/10	9/21	84.9	18.2	361	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	730	22.0	5.3	2.8	2.0	や	や	上	上	中	北駒・南駒丘陵地帯、三股沿岸地帯 仙台高冷地帯	
	ゆきむすび	東北157号(はつじりし) × 東北810 (宮城古川農試、平19)	特 定	7/28	9/6	78.9	17.7	480	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	729	22.1	5.2	2.7	2.1	少	少	上	上	中	西駒丘陵地帯の標高の高い地 帯、山間高冷地帯	
	だて正夢	東北199号(はつじりし) × 東北126 (宮城古川農試、平28)	特 幹	8/6	9/16	85.5	19.2	398	中 間 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	742	20.0	5.1	2.6	2.0	中	中	上	上	中	山間高冷地帯を除く県下一円	
	たきたて	興野345号 × 東北153号 (宮城古川農試、平13)	特 定	8/6	9/17	86.7	18.6	483	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	789	21.7	5.0	2.8	2.1	少	少	上	上	中	山間高冷地帯を除く県下一円	
普通米	金のいぶき	たきたて × 北越189号(めぼれもち) (宮城古川農試、平28)	特 定	8/7	9/21	81.2	19.4	490	個 種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	686	21.4	5.3	2.8	2.0	少	少	上	上	中	山間高冷地帯を除く県下一円	
	中 産	東北149号 × (山田精 × 東北40号) (宮城古川農試、平6)	特 幹	8/3	9/10	76.8	17.5	571	種 数	或	或	弱	弱	弱	弱	788	23.8	5.3	2.9	2.1	中	中	上	上	中	平坦地帯、西駒丘陵地帯の標 高の低い地帯	

(注) 1) 調査地：本邦普及員調査区(三山農試試験地、大崎市) 施設調査：高産5kg/10a、実収量5kg/10a、減収5kg/10a

2) 調査年次：令和元年～令和5年

3) 本表の特性の分類は、平成27年(月)に示された新たな調査標準

4) 収量及び千粒重は、篩目1.6mmで調査し、水分16%換算とした。

XII 優良品種特性表 (大豆)

(R1~R5)

種別	品種名	来歴 (育成場所, 育成年次)	採用品年次	優良品種区分	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	* 生 長 型	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	主 茎 節 数 (節)	* 葉 形 型	* 葉 育 色 及 び 有 無	* 花 色	* 熟 色	* 莢 性	子 実										* 粒 重 (g)	* 形 状	* 皮 色	* 種 皮 色	* 臍 色	10a 当 たり 収 量 (kg)	粗 た ん ぱ く 質 (%)	粗 脂 肪 (%)	全 糖 (%)	* 外 観 品 質	病害抵抗性				* 葉 植 適 応 性	* 莢 播 適 応 性	栽培適地
																* 百 粒 重 (g)	* 形 状	* 皮 色	* 種 皮 色	* 臍 色	* 10a 当 たり 収 量 (kg)	粗 た ん ぱ く 質 (%)	粗 脂 肪 (%)	全 糖 (%)	* ウ イ ル ス 病											* 立 枯 病	* 葉 斑 病	* 葉 腐 病				
大豆	すずほのか ^{注2}	刈交78F9×コスズ (東北農研, 平18)	平20	特定	8.08	10.12	中間型	60	4.2	15.2	三角形	有限	白	紫	淡	中	中	9.2	黄白	黄	307	45.1	17.6	22.3	中	上	中	中	中	中	大	大	山間高冷地を除く 県下一円									
大豆	タンレイ	農研2号×東山19号(ロマンタカ) (長野県中野農試, 昭53)	昭53	基準	7.30	10.29	中間型	67	4.5	14.5	円形	有限	白	紫	褐	中	中	30.9	楕円	黄	327	44.4	20.1	21.6	中	上	中	中	中	大	大	山間高冷地を除く 県下一円										
大豆	あやこがね ^{注3}	東山16号(サカサカ)×エンレイ (長野県中野農試, 平11)	平11	基準	7.27	10.21	中間型	91	4.3	16.5	円形	有限	白	紫	褐	中	中	35.1	球	黄	351	45.3	19.4	21.7	中	上	中	中	中	中	大	大	山間高冷地を除く 県下一円									
大豆	タチナガハ	東山16号(サカサカ)×東山系G597 (長野県中野農試, 昭51)	平8	特定	7.30	11.06	中間型	75	4.5	15.5	長×中間	有限	白	紫	褐	中	中	37.8	楕円	黄	323	42.5	21.0	22.0	中	上	中	中	中	中	中	中	山間高冷地を除く 県下一円									
大豆	きぬさやか ^{注4}	刈交508号×刈交0459F1 (東北農研, 平17)	平18	特定	7.25	10.16	中間型	76	4.9	15.2	円形	有限	白	紫	中	中	中	28.5	球	黄	391	43.4	19.3	23.2	中	上	中	中	中	中	中	中	山間高冷地を除く 県下一円									
大豆	すずみのり	東山199号(サカサカ)×東山系 X595号(刈交1212号) (長野県中野農試, 平11)	令4	特定	7.30	11.01	中間型	76	4.0	15.3	三角形	有限	白	紫	褐	中	中	36.3	楕円	黄	391	44.7	19.9	21.6	中	上	A B	中	中	中	中	山間高冷地を除く 県下一円										
大豆	ミヤギシロメ	岩野在産種の系統分離 (岩野農試, 昭60)	昭36	基準	8.03	11.10	中間型	85	5.5	16.4	円形	有限	白	紫	褐	中	中	43.4	や や 楕 円	黄 白	347	43.0	19.1	23.9	中	上	中	中	中	小	小	県下平地地帯										

注1) 特性表のデータは、過去5か年(令和元年~令和5年)の優良(奨励)品種調査調査結果の平均値。
 注2) 「*」印を付した項目は「すずみのり」以外に「だいたい」種苗特性分類(農林水産省)、「すずみのり」は「だいたい」種苗特性分類(農林水産省)の栽培データ。
 注3) 「すずほのか」は、平成16~19年(6月下旬播きの栽培栽培)のデータ。
 注4) 「あやこがね」は、平成26~29年のデータ。
 注5) 「きぬさやか」は、平成27年のみのデータ。
 注6) 「タンレイ」の葉斑病抵抗性は「だいたい」種苗特性分類(農林水産省)では「中」だが、県内発育程度を考慮し「やや弱」としている。

Ⅺ 麦類優良品種特性表

(供試年次:平成30～令和4年)

イ 小麦

早晚性	品種名	採 用 年 次	出 穂 期 月 日	成 熟 期 月 日	穂 長 (cm)	m ² 当 た り 穂 数	芒 の 長 短	株 の 開 閉	穂 脱 粒 性 程 度	* 容 積 重 (g/L)	* 10 a 当 た り 収 量 (kg)	品質(60%粉)		色相		諸抵抗性						概 要	
												粗 蛋 白 含 有 率 (%)	灰 分 (%)	白 度	外 観 品 質	* さ び 病	* う ど ん こ 病	* 赤 か び 病	* 凍 上 害 抵 抗 性	* 耐 寒 性	* 耐 倒 伏 性		
早生	あおばの恋 (育成場所、育成年) 関東105号Veery'sのF1×西海171号 (農業研究社、平20)	平20	4.3	6.16	75	474	や や 長	や 中 閉	中 II	42.2	492	9.5	0.49	85	中	上	弱	や	や	や	中	中	早生。中稈で耐倒伏性は中。製粉歩留まりが高く、アミ ロー重合量がやや低く製麺適性が概れる。
中生の早	シラネコムギ (育成場所、育成年) 北陸49号×東海80号 (長野農試、昭61)	平元	5.4	6.19	81	440	中 閉	中 IV	41.8	533	9.1	0.40	83	中	上	強	や	や	や	中	強	中	中稈・強稈で草型も良く、耐寒性は強。穂発芽性は強。 加工適性が高く、麵用粉として食味も良好である。
中生の早	夏黄金 (育成場所、育成年) 関東123号×東北214号のF1×関東 123号 ×東北209号のF1×もち盛系C- 3170a	平28	5.5	6.19	79	471	極 短	や 開	中 V	40	543	10.8	0.46	83	中	上	強	中	中	強	中	中	中稈・強稈で耐倒伏性は強。凍上害抵抗性、耐寒性は強。 穂発芽性は強。赤かび病抵抗性は中。製パン適性が高く、 中華麵にも適する。

注1) 特性表のデータは優良(奨励)品種決定調査(平成30～令和4年) *印の特性は「小麦種苗特性分類」(農林水産省)による。

注2) 品質(60%粉)のデータは、「あおばの恋」は平成16～18年、「シラネコムギ」は平成29年、「夏黄金」は平成25～29年の調査結果による。

ロ 大麦

早晚性	品種名	採 用 年 次	出 穂 期 月 日	成 熟 期 月 日	穂 長 (cm)	m ² 当 た り 穂 数	芒 の 長 短	株 の 開 閉	穂 脱 粒 性 程 度	* 容 積 重 (g/L)	* 10 a 当 た り 収 量 (kg)	品質		色相		諸抵抗性						概 要	
												硝 子 率 (%)	55 % 精 白 度	放 飯 白 度	外 観 品 質	* さ び 病	* う ど ん こ 病	* 赤 か び 病	* 凍 上 害 抵 抗 性	* 耐 寒 性	* 耐 倒 伏 性		
早生	ジュンライ (育成場所、育成年) シリヤ*×東山皮68号 (長野農試、平2)	平3	4.22	6.4	94	493	や 長	や 閉	中 I	37.9	687	46.8	46.5	37	中	中	強	や	や	や	中	強	中稈・強稈で草型も良く耐倒伏性は強。赤かび病、うどんこ 病にやや弱く、耐寒性はやや強、耐雪性は中。
中生の早	ホワイトアイバー (育成場所、育成年) 東山系種437号×東山皮96号 (長野農試、平27)	平28	4.25	6.6	92	439	長	中 中	I IV	37.2	690	17.4	48.8	34	中	中	強	や	や	や	強	強	中稈で耐倒伏性はやや強、赤かび病にやや弱く、耐寒性は やや強、耐雪性は強。もち性。
中生	ミノリムギ (育成場所、育成年) 東山皮1号×コガ*ソク* (長野農試、昭44)	昭44	4.27	6.7	104	508	長	中 中	IV V	37.0	697	43.7	47.0	35	中	中	強	や	や	や	強	強	多収、草稈で株がやや開き、耐倒伏性はやや強。赤かび病 は中。耐寒性・耐雪性は強。

注1) 特性表のデータは優良(奨励)品種決定調査(平成30～令和4年、ただし「ホワイトアイバー」は平成28～29年、令和2～4年)、*印の特性は「大麦種苗特性分類」(農林水産省)による。

注2) 品質のデータは平成25～29年の調査結果による。

XII 水稻優良品種の年次別作付面積

(面積:ha)

年次 品種	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合	
		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B
うるち	やまのしずく	30	0.1%	34	0.1%	36	0.1%	8	0.01%	0.014%	32	0.1%	0.1%	4	0.01%	0.01%	0.01%	
	ササニシキ	3,534	6.4%	3,447	6.1%	3,479	5.9%	3,933	6.8%	6.7%	3,872	7.0%	6.8%	4,270	7.7%	7.5%	7.5%	
	ひとめぼれ	42,218	76.2%	43,887	77.1%	43,988	75.0%	42,509	73.7%	71.9%	40,189	72.8%	71.0%	38,805	70.3%	68.6%	68.6%	
	まなむすめ	2,831	5.1%	2,532	4.4%	2,941	4.3%	2,895	5.0%	4.9%	3,246	5.9%	5.7%	3,488	6.3%	6.2%	6.2%	
	だて正夢	287	0.5%	608	1.1%	841	1.0%	860	1.5%	1.5%	663	1.2%	1.2%	741	1.3%	1.3%	1.3%	
	げんきまる	1,050	1.9%	983	1.7%	1,046	1.7%	1,105	1.9%	1.9%	1,032	1.9%	1.8%	1,190	2.2%	2.1%	2.1%	
	トヨシキ	123	0.2%	114	0.2%	102	0.2%	122	0.2%	0.2%	42	0.1%	0.1%	48	0.1%	0.1%	0.1%	
	コシヒカリ	615	1.1%	573	1.0%	580	1.0%	543	0.9%	0.9%	464	0.8%	0.8%	425	0.8%	0.8%	0.8%	
	つや姫	3,986	7.2%	4,085	7.2%	4,378	7.0%	5,008	8.7%	8.5%	4,966	9.0%	8.8%	5,257	9.5%	9.3%	9.3%	
	東北194号	278	0.5%	232	0.4%	220	0.4%	251	0.4%	0.4%	178	0.3%	0.3%	194	0.4%	0.3%	0.3%	
	蔵の華	148	0.3%	153	0.3%	172	0.3%	162	0.3%	0.3%	103	0.2%	0.2%	120	0.2%	0.2%	0.2%	
	ゆきむすび	58	0.1%	61	0.1%	63	0.1%	63	0.1%	0.1%	71	0.1%	0.1%	94	0.2%	0.2%	0.2%	
	たきたて	0	0.0%	37	0.1%	35	0.1%	30	0.1%	0.1%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.0%	
	金のいぶき	235	0.4%	156	0.3%	117	0.2%	212	0.4%	0.4%	349	0.6%	0.6%	567	1.0%	1.0%	1.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.0%	
計	55,390	100%	56,902	96.7%	57,994	97.2%	57,701	97.6%	100%	57,701	97.6%	100%	55,205	97.6%	100%	55,200	97.6%	
もち	ヒメノモチ	49	2.6%	53	3.2%	22	0.1%	30	2.1%	0.0%	18	1.3%	0.0%	14	1.0%	0.02%	0.02%	
	みやこがねもち	1,832	96.4%	1,577	95.8%	1,412	97.5%	1,344	96.7%	2.3%	1,330	97.9%	2.4%	1,331	98.0%	2.4%	2.4%	
	こちまる	20	1.0%	16	1.0%	15	1.0%	16	1.2%	0.0%	11	0.8%	0.0%	14	1.0%	0.02%	0.02%	
	計	1,900	100%	1,645	100%	1,448	100%	1,389	100%	2.4%	1,359	100%	2.4%	1,358	100%	2.4%	2.4%	
合計	57,289	100%	58,547	100%	59,442	100%	59,090	100%	100%	56,564	100%	100%	56,558	100%	100%	100%		

注1) 作付割合のAは、うるち及びもち種別の作付面積割合。Bはうるち及びもち種合計の作付面積割合。

注2) 平成18年以降の作付面積は、種子供給量(公益社団法人みやぎ農業振興公社原種部)を面積換算(4kg/10a)した。合計面積は東北農政局統計部発表とは一致しない。

ⅩⅢ 大豆優良品種の年次別作付面積

(面積:ha, 割合:%)

年次 品種	平成30年産		令和元年産		令和2年産		令和3年産		令和4年産		令和5年産			
	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)		
大豆	ミヤギシロメ	4,665	43.6%	5,137	46.7%	5,076	47.0%	5,556	50.5%	5,984	50.3%	6,049	51.7%	
	タンレイ	2,622	24.5%	2,640	24.0%	2,700	25.0%	2,288	20.8%	2,289	19.2%	2,036	17.4%	
	タチナガハ	2,825	26.4%	2,695	24.5%	2,462	22.8%	2,607	23.7%	3,084	25.9%	3,112	26.6%	
	あやこがね	235	2.2%	198	1.8%	199	1.8%	153	1.4%	135	1.1%	129	1.1%	
	きぬさやか	96	0.9%	77	0.7%	113	1.0%	102	0.9%	107	0.9%	107	0.9%	
	すずほのか	139	1.3%	110	1.0%	110	1.0%	99	0.9%	106	0.9%	94	0.8%	
	すずみのり												35	0.3%
	その他	118	1.1%	143	1.3%	140	1.3%	195	1.8%	195	1.6%	164	1.4%	
	合 計	10,700	100%	11,000	100%	10,800	100%	11,000	100%	11,900	100%	11,700	100%	

注1) 作付面積は農林水産省作物統計資料とみやぎ米推進課で調査した品種構成比率をもとに算出。

XIV 麦類優良品種の年次別作付面積

(面積:ha, 割合:%)

年次 品種	平成30年産		令和元年産		令和2年産		令和3年産		令和4年産		令和5年産							
	作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合							
		A	B		A	B		A	B		A	B						
ミニムギ	336	28.7%	14.8%	292	25.2%	12.8%	211	18.2%	9.3%	275	21.5%	11.5%	295	20.9%	12.3%	262	18.1%	10.0%
シユンライ	814	69.6%	35.9%	667	57.5%	29.1%	675	58.2%	29.9%	527	41.2%	22.1%	495	35.1%	20.6%	505	34.8%	19.3%
大麦 ホワイトファイバー	—	—	—	181	15.6%	7.9%	247	21.3%	10.9%	431	33.7%	18.0%	569	40.4%	23.7%	648	44.7%	24.8%
その他	20	1.7%	0.9%	20	1.7%	0.9%	27	2.3%	1.2%	47	3.7%	2.0%	51	3.6%	2.1%	36	2.5%	1.4%
計	1,170	100%	51.5%	1,160	100%	50.7%	1,160	100%	51.3%	1,280	100%	53.6%	1,410	100%	58.7%	1,450	100%	55.6%
シラネコムギ	613	55.7%	27.0%	728	64.4%	31.8%	603	54.8%	26.7%	582	52.4%	24.4%	476	47.9%	19.8%	571	49.2%	21.9%
夏黄金	—	—	—	261	23.1%	11.4%	363	33.0%	16.1%	406	36.6%	17.0%	435	43.8%	18.1%	500	43.1%	19.2%
小麦 あおばの恋	132	12.0%	5.8%	124	11.0%	5.4%	116	10.5%	5.1%	105	9.5%	4.4%	64	6.4%	2.7%	63	5.4%	2.4%
その他	33	3.0%	1.5%	10	0.9%	0.4%	16	1.5%	0.7%	17	1.5%	0.7%	19	1.9%	0.8%	27	2.3%	1.0%
計	1,100	100%	48.5%	1,130	100%	49.3%	1,100	100%	48.7%	1,110	100%	46.4%	994	100%	41.3%	1,160	100%	44.4%
合計	2,270	100%	100%	2,290	100%	100%	2,260	100%	100%	2,390	100%	100%	2,404	100%	100%	2,610	100%	100%

注1) 作付割合のAは、大麦及び小麦別の作付面積割合。Bは大麦及び小麦合計の作付面積割合。

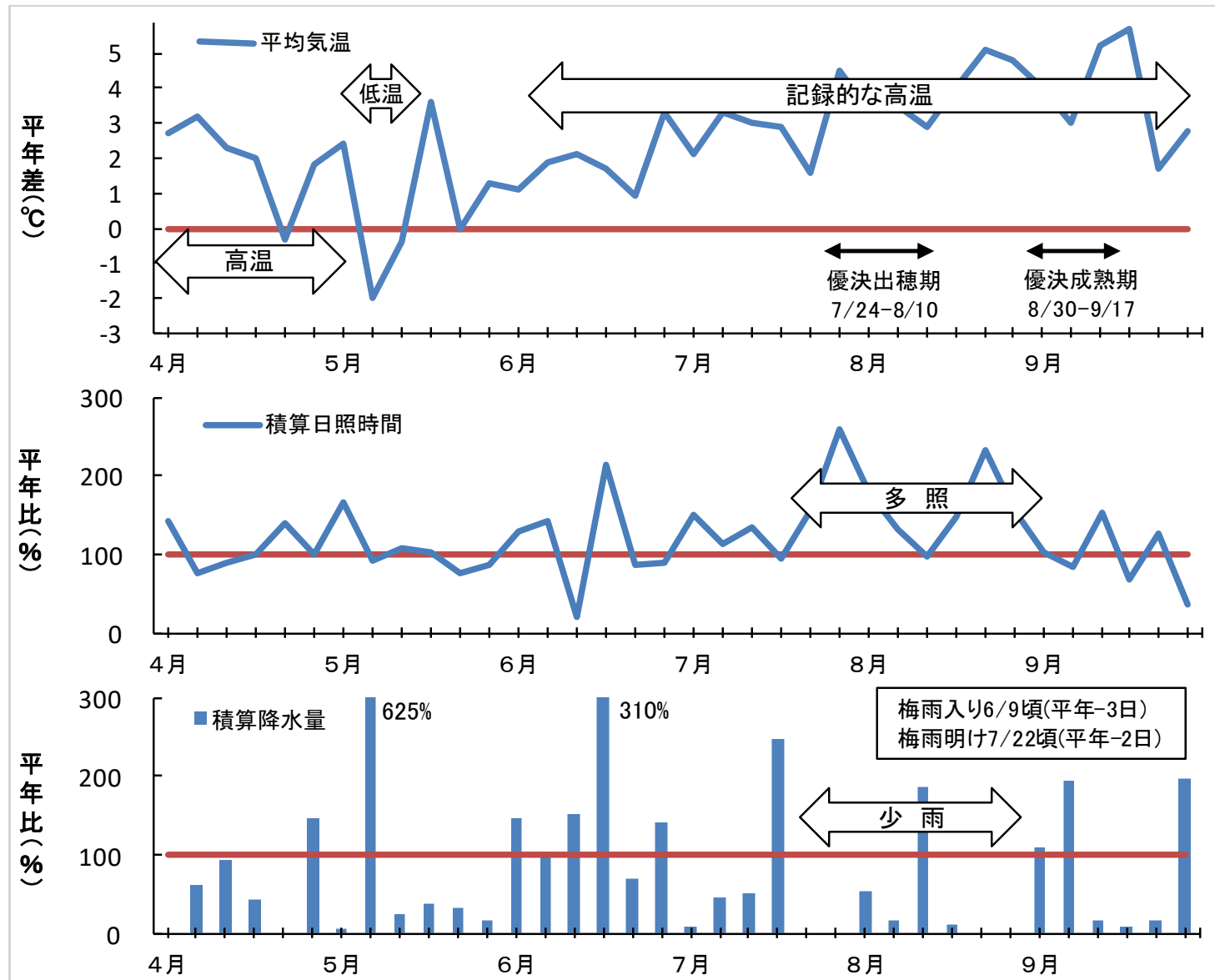
注2) 平成18年以降の作付面積は、農林水産省「作物統計」(面積)とみやぎ米推進課で調査した品種構成比率(播種状況調査)を基に算出。

令和5年度 水稻優良品種決定調査結果

令和6年2月6日

宮城県古川農業試験場

稲作期間 気象の特徴



古川アメダス半旬値
令和5年4月～9月

優良品種として要望される品種

気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種

イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種

(イ) **極良質・極良食味**で他県の銘柄に対抗する品種

(ロ) 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の**晩生**品種

(ハ) 既存の優良品種に、生産者・消費者・**実需者等のニーズに適応**する望ましい特性を付与した品種

ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種

(イ) 業務用に対応する品質・食味を持ち、**収量性**に優れた品種

(ロ) チルド加工適性の高い**低アミロース**品種

(ハ) 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種

ハ 新たな需要を創出する品種

(イ) 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種

(ロ) 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応などに実需者からの要望があり、特定需要が見込まれる品種

令和5年度供試系統（本調査・現地調査）

うるち種9系統（うち低アミロース1系統）、巨大胚1系統、酒造好適米1系統

早晚性	系統名	対照品種	調査年数	特徴（育成地による特性評価）
早生	奥羽450号	やまのしずく	1-1	かなり多収、いもち病ほ場抵抗性、耐倒伏性
中生	東北235号	ひとめぼれ (げんきまる)	4-4	Cd低吸収性、いもち病ほ場抵抗性
	東北236号		2-2	Cd低吸収性、穂いもちほ場抵抗性、耐冷性
	福島64号		2-2	高温登熟性、葉いもちほ場抵抗性、耐冷性
	岩手148号		1-1	いもち病ほ場抵抗性、耐冷性
	東北241号		1-1	高温登熟性、いもち病ほ場抵抗性
晩生	東北238号	つや姫 (だて正夢)	2-2	耐冷性、いもち病ほ場抵抗性
	東北239号		2-2	低アミロース、いもち病ほ場抵抗性、耐冷性
	東北242号		1-1	いもち病ほ場抵抗性
巨大胚 中生	東北胚232号	金のいぶき	4-4	巨大胚、低アミロース、いもち病ほ場抵抗性
酒造好適米 中生	福島酒67号	蔵の華 (吟のいろは)	1-0	心白発現高、いもち病ほ場抵抗性

注) 対照品種の()内は比較品種。調査年数は本調査－現地調査の年数。

令和5年度供試系統（予備調査）

うるち種11系統（うち低アミロース1系統）

早晚性	系統名	対照品種	調査年数	特徴（育成地による特性評価）
早生	岩手153号	やまのしずく	1	いもち病ほ場抵抗性、低アミロース
	山形154号		1	いもち病ほ場抵抗性、耐冷性
	山形160号		1	高温登熟性、いもち病ほ場抵抗性、耐冷性
中生	奥羽452号	ひとめぼれ	1	極多収、耐倒伏性
	岩手152号		1	いもち病ほ場抵抗性
	東北243号		1	Cd低吸収性、いもち病ほ場抵抗性、耐冷性
	秋田133号		1	Cd低吸収性
晩生	関東291号	つや姫	1	穂いもちほ場抵抗性
	関東292号		1	極多収、穂いもちほ場抵抗性
	東北244号		1	大粒多収、いもち病ほ場抵抗性、耐倒伏性
	越南311号		1	高温登熟性

本県に供試を行っている主な育成地

地方系統名	育成地	略称	所在地
奥羽	農研機構 東北農業研究センター	東北農研	秋田県大仙市
関東	農研機構 作物研究部門	作物研	茨城県つくば市
岩手	岩手県農業研究センター	岩手農研	岩手県北上市
東北	宮城県古川農業試験場	宮城古試	宮城県大崎市
秋田	秋田県農業試験場	秋田農試	秋田県秋田市
山形	山形県農業総合研究センター 水田農業研究所	山形水田研	山形県鶴岡市
福島	福島県農業総合センター	福島農総セ	福島県郡山市
越南	福井県農業試験場	福井農試	福井県福井市

注) 農研機構は通称。正式名称は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構。

供試系統の有望度説明

記号	有望度	意味	次年度調査の種子配付希望	育成地側の対応
◎	有望	優良品種候補とする。 (品種審査会に諮る)	しない	配付中止 (採用後は調査終了となるので)
○	やや有望	優良品種として期待できるのでその前提で調査を継続する。	する	次年度も配付を継続する。
△	継続	多少見込みがあるのもう少し調査を継続する。	する	次年度も配付を継続する。
×	打切り	見込みがないので調査を終了する。	しない	配付中止。他県で○△がない限り種子も廃棄する。

注1) ×以外(見込みがある系統)でも、採用される余地がない場合は、「調査終了(特性把握)」又は「打切り」とすることがある。

注2) 育成地の都合で、配付が中止・終了となることがある。

耕種概要

<p>※移植 播種期・播種量：4月17日（乾籾重140g/箱） 移植期：5月10～11日、稚苗、手植え 栽植密度：22.2株/m²（30×15cm）、4本/株 施肥量（N成分kg/a、基肥－幼形期－減分期） 本調査 標肥区：0.5－0－0.1 多肥区：0.7－0－0.1 予備調査 ：0.5－0－0.1</p> <p>※直播（鉄コーティング表面播種、条播） 播種期：5月12日 播種量：120粒/m²（3.2～3.7kg/10a） 施肥量（N成分kg/a、基肥－幼形期－減分期） ：0.4－0－0.1</p>	<p style="text-align: center;">病虫害・雑草防除</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2">※移植栽培</th> <th>使用薬剤量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種子消毒</td> <td>モミガードC・DF</td> <td>200倍液</td> </tr> <tr> <td>播種時</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍液</td> </tr> <tr> <td>5月12日</td> <td>エリジャン乳剤</td> <td>0.3リットル/10a</td> </tr> <tr> <td>5月24日</td> <td>バッチリフロアブル</td> <td>0.5リットル/10a</td> </tr> <tr> <td>6月19日</td> <td>キラップフロアブル</td> <td>2,000倍液</td> </tr> <tr> <td>7月3日</td> <td>バサグラン液剤（ナトリウム塩）</td> <td>70リットル/10a</td> </tr> <tr> <td>7月20日</td> <td>コラトップ1キロ粒剤12</td> <td>1kg/10a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>モンガリット1キロ粒剤</td> <td>1kg/10a</td> </tr> <tr> <td>8月3日</td> <td>スタークルメイト液剤10</td> <td>1,000倍液</td> </tr> <tr> <td>8月10日</td> <td>キラップフロアブル</td> <td>1,000倍液</td> </tr> <tr> <td>8月18日</td> <td>スタークルメイト液剤10</td> <td>1,000倍液</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※直播栽培</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月15日</td> <td>プレキープ1キロ粒剤</td> <td>1kg/10a</td> </tr> <tr> <td>6月6日</td> <td>トップガンフロアブル</td> <td>0.5リットル/10a</td> </tr> <tr> <td>6月19日</td> <td>キラップフロアブル</td> <td>2,000倍液</td> </tr> <tr> <td>7月3日</td> <td>バサグラン液剤（ナトリウム塩）</td> <td>70リットル/10a</td> </tr> <tr> <td>7月28日</td> <td>コラトップ1キロ粒剤12</td> <td>1kg/10a</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">（以降の管理は移植栽培と同様）</p>	※移植栽培		使用薬剤量	種子消毒	モミガードC・DF	200倍液	播種時	ダコレート水和剤	500倍液	5月12日	エリジャン乳剤	0.3リットル/10a	5月24日	バッチリフロアブル	0.5リットル/10a	6月19日	キラップフロアブル	2,000倍液	7月3日	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	70リットル/10a	7月20日	コラトップ1キロ粒剤12	1kg/10a		モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a	8月3日	スタークルメイト液剤10	1,000倍液	8月10日	キラップフロアブル	1,000倍液	8月18日	スタークルメイト液剤10	1,000倍液	※直播栽培			5月15日	プレキープ1キロ粒剤	1kg/10a	6月6日	トップガンフロアブル	0.5リットル/10a	6月19日	キラップフロアブル	2,000倍液	7月3日	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	70リットル/10a	7月28日	コラトップ1キロ粒剤12	1kg/10a
※移植栽培		使用薬剤量																																																					
種子消毒	モミガードC・DF	200倍液																																																					
播種時	ダコレート水和剤	500倍液																																																					
5月12日	エリジャン乳剤	0.3リットル/10a																																																					
5月24日	バッチリフロアブル	0.5リットル/10a																																																					
6月19日	キラップフロアブル	2,000倍液																																																					
7月3日	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	70リットル/10a																																																					
7月20日	コラトップ1キロ粒剤12	1kg/10a																																																					
	モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a																																																					
8月3日	スタークルメイト液剤10	1,000倍液																																																					
8月10日	キラップフロアブル	1,000倍液																																																					
8月18日	スタークルメイト液剤10	1,000倍液																																																					
※直播栽培																																																							
5月15日	プレキープ1キロ粒剤	1kg/10a																																																					
6月6日	トップガンフロアブル	0.5リットル/10a																																																					
6月19日	キラップフロアブル	2,000倍液																																																					
7月3日	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	70リットル/10a																																																					
7月28日	コラトップ1キロ粒剤12	1kg/10a																																																					

令和5年度成績概要（本調査1）

早晚性	系統名	玄米重 (kg/a)	対照比 (%)	外観 品質	対照差	食味官能 (-3~+3)		概評		有望度
						粘り	総合	有利形質	不利形質	
早生	奥羽450号	63.8	107 ↑	4.8	+0.2 →	-0.0	+0.3	収量(標肥のみ)	千粒重, 品質(死米)	△~× (打切り)
中生	東北235号	58.7	100 →	4.8	-0.1 →	-0.3	-0.4	Cd低吸収性, いもち病抵抗性		○ (調査終了)
	東北236号	58.6	99 →	4.8	-0.1 →	-0.0	-0.3	Cd低吸収性	品質(基白)	○~△ (調査終了)
	福島64号	58.0	98 ↓	3.5	-1.4 ↑	+0.3	-0.1	品質		○
	岩手148号	57.0	97 ↓	4.3	-0.6 ↗	-0.8***	-0.8***	千粒重,品質	食味	△ (打切り)
	東北241号	58.6	99 →	4.3	-0.6 ↗	-0.3	-0.1	いもち病抵抗性, 品質	千粒重	○~△

注1) 移植栽培・標肥区のデータ。

注2) 外観品質は上上~下下を1~9で示した(値が小さいほど優る)。

注3) 食味官能は、不良~良を-3~+3で評価した結果を対照品種との差で示した。***: 危険率0.1%

令和5年度成績概要（本調査2）

早晚性	系統名	玄米重 (kg/a)	対照比 (%)	外観 品質	対照差	食味官能 (-3~+3)		概評		有望度
						粘り	総合	有利形質	不利形質	
晩生	東北238号	62.8	99 →	4.2	+1.0 ↓	+0.3	-0.1	いもち病抵抗性, 千粒重	品質(基白)	△
	東北242号	62.9	99 →	4.7	+1.5 ↓	-0.1	-0.3	いもち病抵抗性, 千粒重	品質(基白)	△~× (打切り)
	東北239号	61.6	97 ↘	3.2	±0.0 →	+0.1 (だて正夢 比較)	-0.0	食味,千粒重		○
巨大胚 中生	東北胚232号	57.7	113 ↑	4.5	+0.3 →	-0.2	-0.2	いもち病抵抗性, 収量		◎~○ (調査終了)
酒造 好適米 中生	福島酒67号	57.4	98 ↘	4.8	-1.7 ↑	-	-	品質,心白発現, 千粒重	(吟のいろは 比較) 品質,収量	△~× (打切り)

注1) 移植栽培・標肥区のデータ。

注2) 外観品質は上上~下下を1~9で示した（値が小さいほど優る）。

注3) 食味は、不良~良を-3~+3で評価した結果を対照品種との差で示した。ただし、東北239号は、だて正夢(低アミロース)比較で評価した。

令和5年度成績概要（予備調査1）

早晚性	系統名	玄米重 (kg/a)	対照比 (%)		外観 品質 対照差		玄米 タンパク (乾物%)	概評		有望度	
								有利形質	不利形質		
早生	岩手153号	61.6	99	➡	3.8	-0.7	➡	6.9	品質	収量	△～× (打切り)
	山形154号	58.3	94	↓	4.0	-0.5	➡	6.8	品質	収量	△～× (打切り)
	山形160号	63.3	102	➡	4.3	-0.2	➡	6.6	いもち病抵抗性, 品質		△
中生	奥羽452号	72.6	116	↑	5.0	+0.7	➡	6.2	収量,千粒重	品質	△～× (打切り)
	秋田133号	66.6	106	↑	4.5	+0.2	➡	6.3	Cd低吸収性, 収量,千粒重	品質	△
	東北243号	59.5	95	➡	4.0	-0.3	➡	6.6	Cd低吸収性, いもち病抵抗性	収量	△
	岩手152号	54.7	88	↓	3.3	-1.0	↑	6.4	いもち病抵抗性, 品質	収量	△～× (打切り)

注1) 外観品質は上上～下下を1～9で示した（値が小さいほど優る）。

注2) 玄米タンパクは近赤外成分測定装置で測定した値。

令和5年度成績概要（予備調査2）

早晚性	系統名	玄米重 (kg/a)	対照比 (%)		外観 品質	対照差		玄米 タンパク (乾物%)	概評		有望度
									有利形質	不利形質	
晩生	関東292号	65.1	104	↗	5.0	+1.5	↓	6.0	収量,千粒重	品質	× (打切り)
	関東291号	56.8	91	↓	4.5	+1.0	↓	6.1		収量,品質	× (打切り)
	東北244号	63.8	102	↗	5.0	+1.5	↓	5.8	いもち病抵抗性, 千粒重	品質	× (打切り)
	越南311号	61.5	98	↘	3.0	-0.5	↗	6.2	品質,千粒重		△

注1) 外観品質は上上～下下を1～9で示した（値が小さいほど優る）。

注2) 玄米タンパクは近赤外成分測定装置で測定した値。

令和 5 年度大豆優良品種決定調査結果

古川農業試験場



令和5年度大豆供試系統

【要望される品種】

良質多収で機械による収穫適性及びタンパク含量が高く、加工適性に優れた以下の特性を有する品種。

- イ. 晩播栽培に適する品種。
- ロ. ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い品種。
- ハ. 「タンレイ」より紫斑病抵抗性が強い品種。

系統・ 品種名	要望	早晩性	供試 年数	標準品種	抵抗性等の特徴（育成地の評価）					現地調査	
					紫斑病	SMV	べと病	SCN	裂莢性		
本 調 査	東山239号	ハ	早生	3	（標）タンレイ	強～ 極強	ABCD 抵抗性	強	中	中	
	リョウユウ	ロ	中生の早	2	（標）タンレイ	-	ABCD 抵抗性	-	極強	易	
	東北191号	ロ	中生の晩	3	（標）タチナガハ	-	ABCD 抵抗性	-	強	難	登米（2）、大崎 （1）、栗原（1）
予 備 調 査	東北196号	-	中生の早	1	（標）タンレイ	-	ABCD 抵抗性	-	[強]	[易]	
	関東155号	-	中生の早	1	（標）タンレイ	-	AA2BCD 抵抗性	-	-	難	
	北陸6号	-	中生の晩	1	（標）タチナガハ	-	AA2B 抵抗性	-	-	難	
比較 品種	（比）ミヤギシロメ、（比）すずみのり										

（標）：標準品種（対照）、（比）：比較品種を示す。[]は、DNAマーカー検定または交配組合せから推定される抵抗性等の有無。

SMV：ダイズモザイクウイルス、SCN：ダイズシストセンチュウを示す。

現地調査の（）内の数値は供試年数を示す。

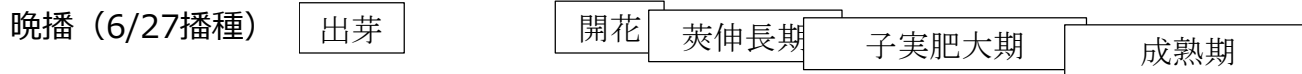
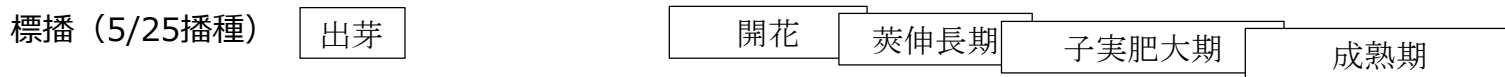
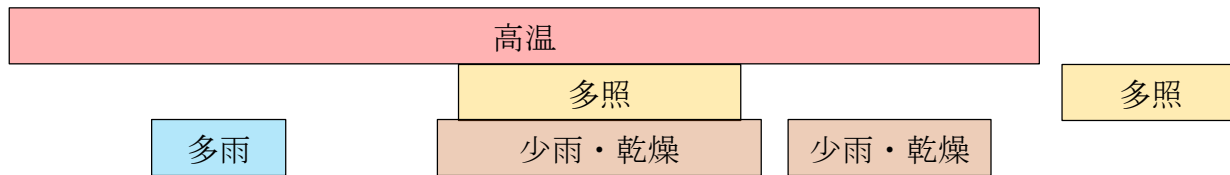
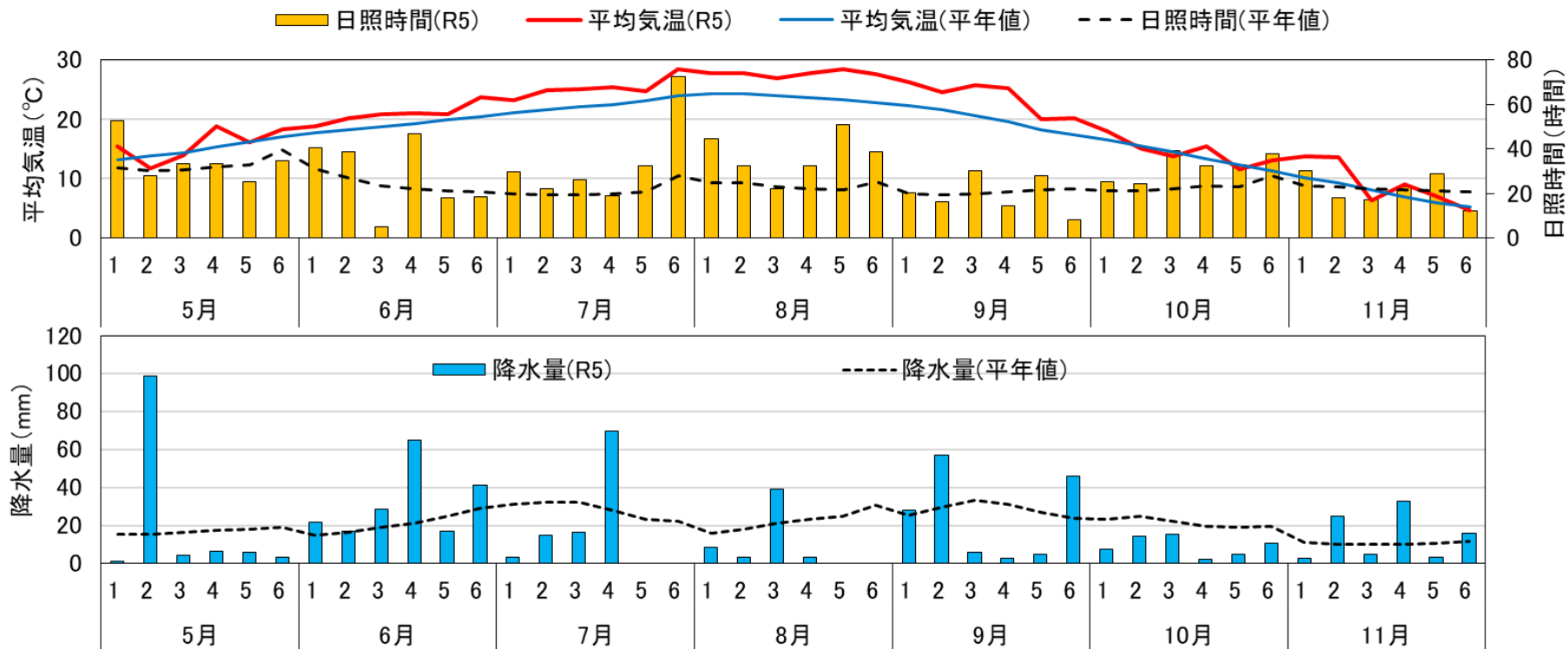
試験区の耕種概要

試験区	標播区		晩播区	
ほ場	古川農業試験場内F2圃場			
播種期	5月25日		6月27日	
反復数	3区		2区	
栽植密度	13.3本/m ²		26.7本/m ²	
畦間	75cm			
株間	20cm		10cm	
除草剤	エコトップP乳剤(播種後)	5月25日	エコトップP乳剤(播種後)	6月27日
	ポルトフロアブル	7月12日		
中耕・培土	6月26日、7月14日		7月14日、7月28日	
土改剤	粒状苦土石灰(5kg/a)			
基肥	高度化成550(大豆専用) N:P:K=0.2:0.6:0.8(kg/a)			
病虫害防除	クルーザーMAXX	種子処理		5月11日
	ファンタジスタフロアブル	ドローン散布		8月14日
	プレバソン5	ドローン散布		8月14日
	プランダム乳剤	ドローン散布		9月5日
	スタークル液剤	ドローン散布		9月5日

場内圃場は、SCNの被害履歴が無いため、SCN被害履歴がある現地圃場を選定し、抵抗性を評価した。

大豆生育期間 気象の特徴

(古川アメダス令和5年5月～令和5年11月)



生育概況（基幹品種）

		開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/株)	有効莢数 (個/a)	百粒重 (g)	子実重 (kg/a)
標播	R5	7/18	11/6	62.1	14.3	9.3	68.7	26.1	24.8
	タンレイ	8/1	10/24	69.4	14.7	8.5	68.6	32.3	35.1
	平年差比	-14.0	13.0	0.89	0.97	1.09	1.00	0.81	0.71
	R5	7/26	11/13	97.7	17.9	10.5	39.7	36.9	9.3
	ミヤギシロメ	8/4	11/9	97.8	16.5	11.1	59.6	44.3	39.6
	平年差比	-9.0	4.0	1.00	1.09	0.94	0.67	0.83	0.23
晩播	R5	8/5	10/26	66.9	13.3	4.9	75.2	23.9	32.0
	タンレイ	8/10	10/28	70.0	13.0	3.9	69.0	31.3	32.3
	平年差比	-5.0	-2.0	0.96	1.02	1.27	1.09	0.76	0.99
	R5	8/9	11/13	95.2	16.6	5.1	47.2	36.4	26.3
	ミヤギシロメ	8/17	11/14	88.2	13.9	5.2	60.7	41.5	37.2
	平年差比	-8.0	-1.0	1.08	1.19	0.98	0.78	0.88	0.71

平年差比は、開花期と成熟期では平年差、その他の調査項目では平年比を示す。

- 播種期以降の高温により生育が進み、開花期が早まった。
- 標播では、開花期間が長くなったことで同じ固体内でも着莢時期のばらつきが大きく、成熟期が遅れた。
- ミヤギシロメでは、蔓化・倒伏や少雨・乾燥の影響により有効莢数が平年よりも少なかった。
- 子実肥大期頃の少雨・乾燥の影響により百粒重が小さくなり、平年よりも子実重が少なくなった。

令和5年度試験成績（本調査） ※優劣があるところのみ表示

系統・品種名	播種期	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	青立ち (0-5)	最下 着莢高 (cm)	粗 子実重 (kg/a)	同左 対照比 (%)	外観 品質 (1-7)	被害粒									
									紫斑 (0-5)	褐斑 (0-5)	裂皮 (0-5)							
東山239号	(標播)	7/18	10/30	1	↑	11.4	37.9	152	↑	4.7	↑	1	⇒	1	↑	1	⇒	
	(晩播)	8/5	10/24	0	↑	14.7	43.5	136	↑	5.0	↑	1	⇒	1	↑	0	⇒	
リョウユウ (東北190号)	(標播)	7/18	11/10	2	⇒	7.3	↓	19.1	77	↓	6.7	⇒	2	↓	3	↑	1	⇒
	(晩播)	8/4	10/26	1	↑	11.1	↓	36.0	113	↑	6.0	⇒	1	⇒	1	↑	1	↓
(対)タンレイ	(標播)	7/18	11/6	2		10.4		24.8	100		6.7		1		5		1	
	(晩播)	8/5	10/26	2		17.2		32.0	100		6.0		1		2		0	
東北191号	(標播)	7/18	11/10	2	↑	11.3		21.4	143	↑	5.7	⇒	1	↓	2	↑	2	↓
	(晩播)	8/5	11/6	0	↑	16.3	↓	35.7	150	↑	4.5	↑	0	⇒	1	⇒	1	↓
(対)タチナガハ	(標播)	7/19	11/10	3		11.9		14.9	100		6.0		0		3		1	
	(晩播)	8/6	11/13	3		20.0		23.7	100		5.5		0		1		0	

品質は、上の上:1、上の中:2、上の下:3、中の上:4、中の中:5、中の下:6、下:7を示す。

● 東山239号

長所：標播・晩播とも粗子実重が多い、青立ちが少ない、外観品質が良い、褐斑粒が少ない

短所：特になし

● リョウユウ（ダイズシストセンチュウの被害は無かった）

長所：晩播の粗子実重が多い、褐斑粒が少ない

短所：標播の粗子実重が少ない、最下着莢高が低い、紫斑粒が多い

● 東北191号（ダイズシストセンチュウの被害は無かった）

長所：標播・晩播とも粗子実重が多い、青立ちが少ない、褐斑粒が少ない

短所：最下着莢高が低い、紫斑粒が多い、裂皮粒が多い

供試系統の有望度の評価基準

有望度		意味	次年度調査の種子配布希望	育成地の対応
◎	有望	優良品種候補とする（品種審査会に諮る）	しない	採用後は調査終了となるので配布終了
○	やや有望	優良品種として期待できるので、その前提で調査を継続する	する	次年度も配布を継続
◇	再検討	見込があるので、年次変動、加工適性、現地適応性等についてデータを蓄積する	する	次年度も配布を継続
△	やや劣る	見込が薄いので調査を終了する	しない	配布中止
×	劣る	見込が無いので調査を終了する	しない	配布中止

育成地の都合で配布中止・終了となることもある

供試系統の評価（本調査）

系統・品種名	有望度	概評
東山239号	◇ 再検討	特に短所は認められないが、収量・品質等の年次変動、加工適性を見るため再検討
本調査 リョウユウ	△ やや劣る	標播の収量が低く、紫斑病の発生も多いためやや劣る
東北191号	◇ 再検討	収量が高いが、被害粒の発生程度等の年次変動、加工適性を見るため再検討

◎：有望 ○：やや有望 ◇：再検討 △：やや劣る ×：劣る

供試系統（東北191号）の評価（現地調査）

実施場所	粗子実重	外観品質	SCN抵抗性	有望度	概評
登米市豊里	37.8 (105)	2 (0)	被害無のため判然としなかった	○ 有望	タチナガハに比べ、開花期及び成熟期が早く、蔓化や倒伏、病害虫も見られず、生育揃いも良好。収量はやや優り、品質は同程度。最下着莢高がやや低いが、有望。
大崎市田尻	49.2 (120)	4 (-1)	被害無のため判然としなかった	○ 有望	生育はタチナガハと同程度からやや早い。百粒重がタチナガハより小さいが青立ちは見られず、収量の面で優れる。なお、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性は判然としなかった。
栗原市志波姫	32.7 (109)	4 (-2)	被害無のため判然としなかった	◇ 再検討	収量、品質とも、対照品種の「タチナガハ」を上回った。収穫作業性も最下着莢高もタチナガハ並であることが確認された。一部、なびき程度の倒伏が見られた。なお、ダイズシストセンチュウへの抵抗性は判然としなかった。

粗子実重の () は対タチナガハ比、外観品質の () は対タチナガハ差でマイナスだと優れることを示す。

品質は、上の上:1、上の中:2、上の下:3、中の上:4、中の中:5、中の下:6、下:7を示す。

◎：有望 ○：やや有望 ◇：再検討 △：やや劣る ×：劣る

令和5年度試験成績（予備調査） ※優劣があるところのみ表示

系統・品種名	播種期	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	青立ち (0-5)	最下 着莢高 (cm)	粗 子実重 (kg/a)	同左 対照比 (%)	外観 品質 (1-7)	被害粒	
									紫斑 (0-5)	褐斑 (0-5)
東北196号	(標播)	7/16	10/4	4 ↓	7.8 ↓	36.1	146 ↑	7.0 →	4 ↓	2 ↑
	(晩播)	8/3	10/10	0 ↑	12.3 ↓	41.1	128 ↑	5.5 →	2 ↓	1 ↑
関東155号	(標播)	7/18	10/23	1 ↑	7.5 ↓	45.1	182 ↑	3.0 ↑	1 →	1 ↑
	(晩播)	8/5	10/23	0 ↑	10.8 ↓	49.1	153 ↑	2.0 ↑	1 →	1 ↑
(対)タンレイ	(標播)	7/18	11/6	2	10.4	24.8	100	6.7	1	5
	(晩播)	8/5	10/26	2	17.2	32.0	100	6.0	1	2
北陸6号	(標播)	7/21	11/6	1 ↑	10.1 ↓	37.9	254 ↑	5.7 →	1 ↓	1 ↑
	(晩播)	8/6	10/30	3 →	16.0 ↓	40.4	170 ↑	4.5 ↑	0 →	1 →
(対)タチナガハ	(標播)	7/19	11/10	3	11.9	14.9	100	6.0	0	3
	(晩播)	8/6	11/13	3	20.0	23.7	100	5.5	0	1

品質は、上の上:1、上の中:2、上の下:3、中の上:4、中の中:5、中の下:6、下:7を示す。

● 東北196号

長所：標播・晩播とも粗子実重が多い、褐斑粒が少ない

短所：青立ちが多い、最下着莢高が低い、紫斑粒が多い

● 関東155号

長所：標播・晩播とも粗子実重が多い、青立ちが少ない、外観品質が良い、褐斑粒が少ない

短所：最下着莢高が低い

● 北陸6号

長所：標播・晩播とも粗子実重が多い、褐斑粒が少ない

短所：最下着莢高が低い、紫斑粒が多い

供試系統の評価（予備調査）

系統・品種名	有望度	概評
東北196号	× 劣る	紫斑病の発生が多く、劣る
予備系統 関東155号	◇ 再検討	収量、品質等優れるが、年次変動を見るため再検討
北陸6号	◇ 再検討	収量は高いが、被害粒等の年次変動を見るため再検討

◎：有望 ○：やや有望 ◇：再検討 △：やや劣る ×：劣る

今後の予定

【令和5年産の加工適性試験】

- 豆乳抽出試験
- 豆腐加工試験

東山239号、東北191号

タンレイ、ミヤギシロメ、すずみのり、（タチナガハ）

【令和6年度の供試系統】

- 再検討の系統

東山239号、東北191号、関東155号、北陸6号

標準品種：タンレイ、タチナガハ

比較品種：ミヤギシロメ、すずみのり

- 追加の系統

東北194号

密植適応性が高い多収品種のため、密植条件で試験予定

【補足資料】 「東北194号」 を再調査する経緯

- 大崎管内で子実トウモロコシ、大豆、乾田直播水稻の輪作体系の試験を実施（農水省委託プロ：令和5年度～令和7年度、代表機関：農研機構東北農研）
- 本プロジェクトは省力低コスト栽培体系の確立を目標としており、大豆においては**密植適応性で多収性の特徴を持つ「東北194号」**を試験栽培している
- 委託プロにはJA古川も参画しており、将来的に**現場からの品種導入の要望も想定**される
- 古試では令和4年度の予備調査で「東北194号」を供試しているが、その際は慣行の栽植密度（畝間75cm、株間20cm、2本立て）条件の評価のみ
- 現場からの要望を想定して、**密植栽培（畝間37.5cm、株間12cm、1本立て）条件の評価**を行っておく必要があり、令和6年度に供試したいと考えている

令和4年度「東北194号」の調査結果

系統・品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	最下 着莢高 (cm)	子実重 (7.3mm) (kg/a)	同左 対照比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質	有望度	概評 (対照品種との比較)	
									長所	短所
									東北194号	(標播) 7/29
	(晩播) 8/7	10/21	14.4	21.6	64	28.1	4.0			
(対)タンレイ	(標播) 7/31	10/12	19.0	23.7	100	28.8	4.0	最下着莢高が低く、収量が劣り、百粒重が小さいので打ち切り		
	(晩播) 8/9	10/23	18.9	33.5	100	33.0	4.5			

品質は、上の上:1、上の中:2、上の下:3、中の上:4、中の中:5、中の下:6、下:7を示す。